明治四十年九月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百十四號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百拾四號目次

大日本婦人衛生會

十月例會通知

來る十月五日(第一土曜日)午後一時半より神田區一ッ橋通り女子職業學校内に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一演題未定　　堀内文次郎君

一身體及び其保護(續)　ドクトル　富士川　游君

明治四十年九月

私立大日本婦人衛生會

會告

本會は今回振替貯金に加入致し候に就ては會費拂込みの節は何處の郵便局にても送金は總て無料にて取扱ひ申候、本會の振替貯金口座番號は一〇六〇〇番に付右番號御承知の上所在の郵便局に於て該用紙御請取被下指定の欄内へ送金高、拂込人住所氏名、及び加入者住所氏名(即ち本會等を記入し同時に金員御拂込相成候はゞ直に本會へ送金無料にて相屆き且つ途中紛失及び盗難の憂ひも無之候又該用紙裏面に通信文欄有之候間他に用事ある節は何なりとも御記入差支無之候、右の如く拂込人に取りては安全、輕便、經濟等一擧にして種々の利益ある便法に付自今該法を御利用被成下度此段會員諸姉に稟告致候也

○本月發行の本誌には會員諸姉の御便宜を謀り振替貯金拂込用紙を添付致候間そを御用ひ被下度候

明治四十年九月二十日

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとゞ緊要の事にして皆昔事婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相結て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは誠に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を疎かなるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一同集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尙之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに益すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ因て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設くることを得●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の者は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手續は末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ケ月金三拾錢以上、通常會員は一ケ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、顧問若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の

總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は總會に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は會長の諮問に應じ會務を評議し書記は役員の命を受け記錄雜務を掌る幹事の分課を設けて第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ケ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生するときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く議し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又會員相互親睦の爲め閑遊會を開くことあるべし學識經驗ある人々に衛生上の諸演說談話を托し會員は家族の婦女若くは男子を誘致し演說談話を傍聽せしむることを得●第十九條　演說談話會は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他必要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算及び庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計主任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ケ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定めて本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會の員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することなし規定に依るべきものとす●第廿七條　支會の會員に限り本會雜誌を得●第廿八條　本會に送付すべし支會の會員に限り雜誌の請求する者に就ては支會と同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配付すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金品若くは物品等を本會に寄附するある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を雜誌に記錄し尙本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證を要せざるものとして別に返信料を添へらるべし（郵券送一錢）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

東伏見宮依仁親王妃
総裁　周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽田三緒子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多穂子
仝　松平芳子
仝　三浦教子
評議員　石川貞子
仝　岩下ゆか子
仝　濱田捨子
仝　長谷川仲子
仝　仁禮壽賀子
仝　四升子
仝　穂積歌子
仝　土肥多越子
仝　緒方悦子
仝　岡山とし子
仝　小川柔子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山龜子
仝　吉武輝枝子
仝　丹波貞子
仝　高橋孝子
仝　田村きよ子
仝　男爵夫人　南部限子
仝　中濱芳子
評議員　山口貞子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　岸澄子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下咲子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別賛成員

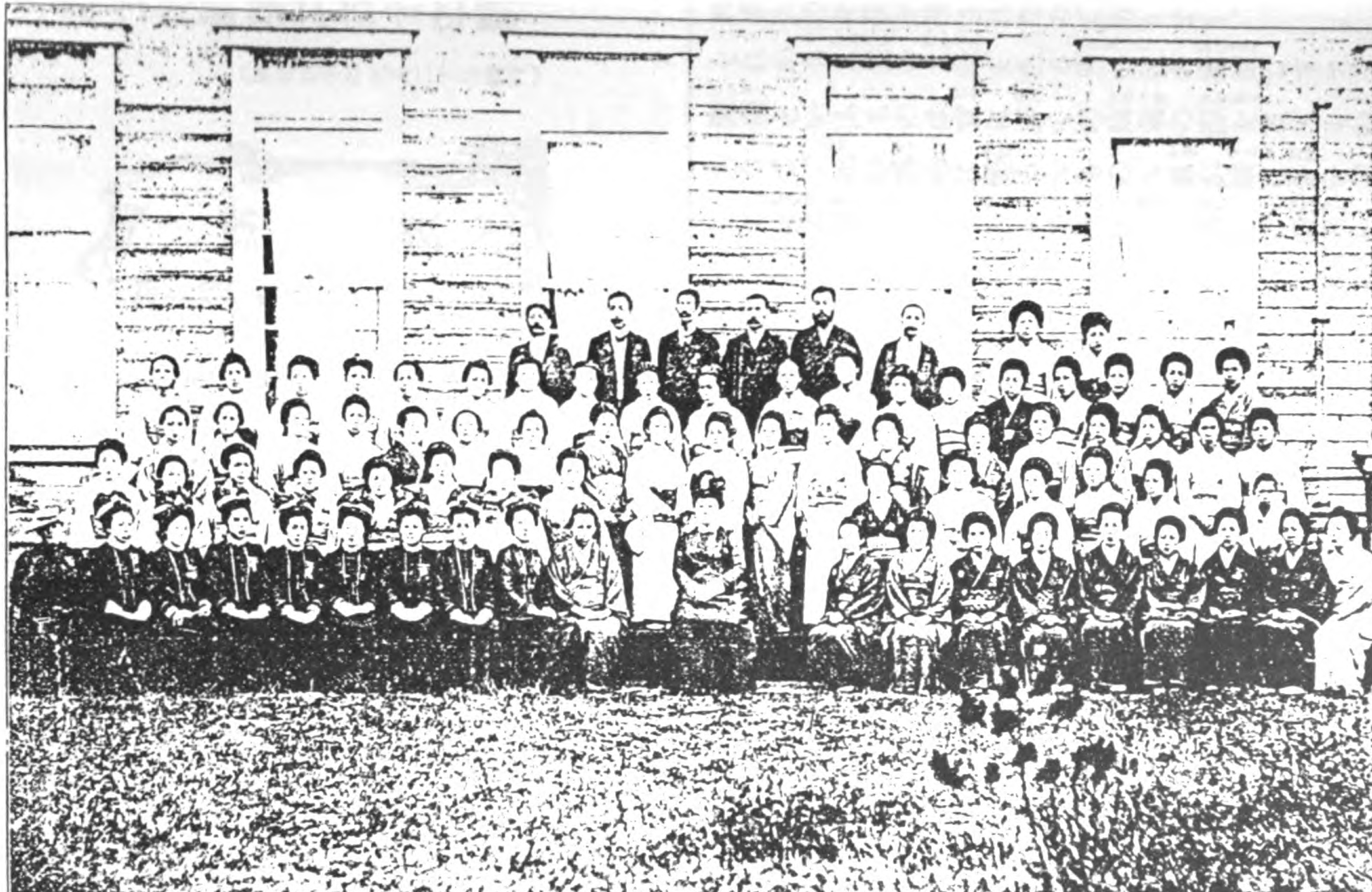
（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
●色川圀士君
醫學博士　●伊東祐彦君
ドクトル　●飯盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
赤十字社内科部長　●岩井禎造君
醫學士　●石原久君
醫學士　●磐瀬雄一君
醫學士　●石原喜久太郎君
貴族院議員　濱尾新君
醫學博士　●濱田玄達君
法學博士　●鳩山和夫君
東京　荻原彌四郎君
醫學博士　●芳賀榮二郎君
●長谷川泰君
新潟　●長谷川一詮君
小兒科　小原頼之君
醫學博士　●岡田榮吉君
醫學博士　●林春雄君
醫學博士　●佐藤達次郎君
醫學博士　●緒方正規君
歩兵中佐　●堀内文次郎君
醫學博士　●土肥慶藏君
醫學博士　●岡田和一郎君

醫學博士　●大澤謙二君
醫學士　大西秀治君
醫學博士　●大澤岳太郎君
一等藥劑官　●恩田重信君
醫學士　●若杉喜三郎君
醫學士　●渡邊房吉君
男爵　●加藤弘之君
醫學博士　●加藤照麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　●川上雅量君
醫學士　●樫田龜一郎君
醫學博士　●金杉英五郎君
醫學士　●笠原光興君
醫學士　●唐澤光德君
醫學士　●河野衛君
醫學博士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高山紀齋君
醫學博士　●高木兼寛君
法學博士　高木豐三君
醫學博士　●田代義德君
新潟　●田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　●竹中成憲君
醫學士　●高田耕安君
新潟縣病院長　●高橋長五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學士　高橋貞碩君
藥學博士　●田原良純君
醫學士　●田村光顯君
醫學士　●久保猪之吉君
醫學士　●米山彦郎君
二等軍醫正　●星野葆光君
醫學士　●宮本叔君
三等軍醫正　●横井忠國君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　南部蠶男君

理學博士　藥學博士　●長井長義君
醫學博士　●遠山椿吉君
醫學博士　●中濱東一郎君
醫學士　●黒田玄通君
醫學士　●栗木府勝君
海軍中佐　●小笠原長生君
醫學士　村松鉄三君
醫學博士　●隈川宗雄君
醫學博士　●栗本東明君
醫學士　●山田鐵三君
醫學士　●山田弘倫君
醫學士　●山根正次君
岡山　山川春二君
衛生試驗所技手　●丸山長四郎君
ドクトル　●松山陽太郎君
ドクトル　●小此木信六郎君
盲啞學校長　●小西信八君
廣島　小泉貫君
醫學士　●古川榮君
東京　布施正顯君
南滿洲鐵道總裁　●後藤新平君
元帝國大學教授　●エ、ベルツ君
醫學士　●甲野棐君
文部書記官　●寺田勇吉君
醫學士　●寺田豐作君
醫學士　寺田織尾君
子爵　●秋元興朝君
前軍醫總監　●足立寛君
ドクトル　●新井古芳君
ドクトル　富士川游君
高崎醫會長　●土谷余次君
產科婦人科　●水原漸君
ドクトル　●久保田誠麿君
醫學博士　●佐々木政吉君
醫學士　●淺田决君
醫學博士　●朝倉文三君
ドクトル　朝山義六君
醫學博士　吾妻勝剛君
醫學博士　●佐藤三吉君
醫學士　●櫻井郁二郎君

ドクトル　佐伯理一郎君
醫學博士　●榊順次郎君
醫學博士　●榊保三郎君
醫學士　●佐藤得齋君
醫學博士　●櫻井恆次郎君
醫學博士　●桐淵鐵次君
醫學士　●北村精造君
醫學博士　●北島多一君
ドクトル　●北川乙二郎君
醫學博士　●木下正中君
醫學士　●北島小太郎君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●三浦謹之助君
小兒科專門　●宮本仲君
理學博士　●箕作佳吉君
醫學博士　●三島通良君
醫學博士　●三宅秀君
醫學博士　●三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學士　●島村俊一君
醫學博士　●弘田長君
ドクトル　●日高昂君
ドクトル　●須田卓爾君
醫學士　●澄川德君
醫學博士　●木村德衛君
醫學博士　森林太郎君
醫學士　●笹川三男三君
醫學士　●波多野惇君
醫學博士　●吳秀三君
ミス　●ソツデル
ミス　●ヒユース
ミセッス　●コーツ
ドクトル　●菊池循一君
醫學士　●橋本左武郎君
醫學士　●島居春洋君
ドクトル　●土田卯三郎君
ドクトル　●佐藤運雄君
ドクトル　●阿山信光君
醫學士　●澤寛制君



明治四十年七月四日新潟支會にて催ふしたる

會長鍋島侯爵夫人歡迎會紀念撮影

婦人衛生雜誌第二百十四號
（明治四十年九月二十日發行）



衛生學大要（承前）

醫學士　河野衛君述

空氣と水と土地、衣服及び住居は、吾々を圍繞して居るものである故、此等の事項に就いて、出來得る限り詳細なる研究をし、そうして此ういふものが吾々の身體健康上にどういふ影響を及ぼすものであるかを調査し、以て吾人身體に有害な事柄を見出し、害になるものは之を避ける工夫をなし、人類の幸福になる事を計らなければならぬ、此の主旨で以てペツテンコーフエル博士は大に衛生學の攻究を遂げられ多大の功績を殘されたのであります、

それから人生の大敵である所の彼の黴菌ですナ、此黴菌といふものは實に多くの病氣の源をなすものであつて、此の爲めに斃るゝものゝ數が誠に多い、そこて此黴菌に對する吾々の抵抗力を高め、黴菌を撲滅し人類の幸福を增進するには、どうしても其黴菌の本性を明かにせなければならぬといふので、此方面に向つて多大の功績を示したのは有名なコーホ博士であります、

其れから私は順を追ふて空氣、水、土地等から衣服住居の事に就いて大略の所を御話いたしましう、

空氣

吾々の住んで居る地球は大約十哩の高さの空氣の層から取巻かれて居ります、空氣は吾々の生存上極めて大切なものでありまして、單に空氣が無ければ、吾々は直に死んで了ふといふのみては無く、其化學的の集成と其理學的關係が甚だ重大な關係を持て居るものであつて、其變化が吾々の健康上、極て大なる

影響を及ぼすのであります、

人間は萬物の靈長であつて、極めてエライものである、抔と昔からヨク人の言ふ所であるけれども、其實中々そうで無い、兎角目立たぬ事に注意を拂はないのが常であつて、時としては目の前にある卑近な事柄にも氣が附かずに居る場合が中々尠くは無いのであります、空氣は固より吾々の眼では見る事は出來無いから、空氣の事抔に氣を附けるものは尠い、只だ無我無中で、此大切な意味のある空氣の中に住んで居るのでありまするけれ共、空氣の吾々の身體に及ぼす影響の甚だ大なる事は以下述ぶる所に依つて明であるでしよう、イヤ明になるやうに述べ立てて見たいのであります、

空氣の化學的集成、理學的の性狀、熱、壓力運動抔の關係は衞生上甚だ緊要なる事項であります、吾々は空氣中に於て、呼吸を營んで居る、一回の呼吸て、約半リーテル(二合五勺)容積の空氣を吸ふ、それて一分間の呼吸數を十六回とすると大約一分間八リーテル容積の空氣を吸ふ事になり、一日の間には實に一萬千五百二十「リーテル」の空氣を吸ふ、普通吾々の取る一日の食物の量を容積に言ふとザット三「リーテル」位である之を吸込む空氣の容積を比べると三千分の一位となる、一日中に吸ひ込む空氣の容積は中々莫大なものであります、

空氣の成分

呼吸に依りて吾々の身體に送り込む空氣の中には、有害な成分を混じて居てはならぬ、

空氣の主なる成分は何であるかといふにそれは先づ窒素と酸素とでありまして、其割合は百の容積の中に、窒素七十九、酸素二十一容積を含んで居ります、空氣中の酸素の分量は所によりて甚だ差異があります、

郊外では、酸素の量が、吾々の衞生上彼是言ふ程に大した差異を來すものではありませぬ、然し洞穴であるとか、鑛山とか或は密閉せられてある場所抔て働いて居る人の呼吸、燈火自然に發生する沼氣、炭

酸瓦斯等が多量に混じて來ますからして、空氣中の酸素の量は大變に減少して來ます、

空氣中の酸素は、空氣中にある種々なる物質を酸化させて、簡單なる物質に分解する働きを具へて居りまして、薪炭を燃燒するにも、蠟燭、ランプの燈るにも、又鐵の銹るのにも常に酸素が働いて居るのであります、又有機物質の腐敗するにも酸素は大なる役を務めて居る、それから吾々の生活に酸素は缺くべからざるものであつて、人體に酸素が送られて、徐々に燃燒作用が起り、炭酸と「アンモニア」を造つて體外に出して了ふ此の働きで體温が發生する、人間及び其他の動物の呼吸、薪炭の燃燒、燈火抔の爲めに、空中の酸素の量が減少する、併し之れは通常は極めて僅かの減少てありまして、其減少は植物の新陳代謝作用で補はれて行きます、即ち植物は炭酸瓦斯を吸ふて、酸素を出します、空氣の主要成分は上に述へましたやうに酸素と窒素とてありますが純粹な窒素又は酸素ばかりの中では無論生活は出來ぬ、空氣中の窒素は酸素を稀薄にする作用のあるものでありまして、純粹な酸素の中に於て呼吸をすると忽ち障害を及ぼします、即ち血液循環に害を與へ、肺臟の病氣を起して來ます、それから空中の酸素の量が減じて來ると、人體に直接大害を與へるものであります、酸素の量が非常に減少して來ると體溫が下つて、呼吸に障碍を及ぼし遂に窒息して死んて了ふ、

それから、空氣の中には、酸素と窒素との外に又「オゾン」と過酸化水素といふものがある、「オゾン」は併しながら、極く少量であつて。空氣百立方米突の中に、僅か二密瓦あるといふ事であります、過酸化水素も極めて少量でありまして、之れは水に溶けるものでありますから、一「リーテル」の雨水の中に〇、二密瓦あるといふ事であります、「オゾン」は酸素を壓搾して、三分の二容積に縮めた形のものであります、之れは、依的兒燐蠟燭、燃料の燃ゆる時、電擊の場合抔にも發生するものであり

ます「オゾン」は固有の臭氣のあるものであります、「オゾン」の純粹なものは害があつて、之を吸ふと呼吸氣道の病氣を起します、

併し「オゾン」は普通の室內空氣の中にはありませぬ、

一體「オゾン」といふものは、物質を酸化させる力のあるものであります、それで衞生上から見ると空氣を清潔にする効があり、且つ種々なる黴菌を殺す力があります、それから飲料水をも清淨にする効力を持つて居る、然しながら何分其分量が極く僅かでありますからして、左程の効力があるとも思へませぬ、

それから、過酸化水素、之れは日光が水に働いて發生するものであります、過酸化水素は消毒の力を持つて居りますから、殺菌劑として用ひられて居ります、一體日光は本來黴菌を殺す力のあるものでありますが、是れは矢張り日光が水に逢ひ、過酸化水素が發生して、此過酸化水素が殺菌作用を營むのであると說明する事が出來ます、肺結核の黴菌は日光に逢ふと二時間位で死滅します、日光の中の赤色と黄色の光は細菌を殺す働きを缺いて居るので、紫抔が主に此働を持つて居る、例へば赤や黄な硝子を經て、光線を送り、細菌に作用させて見るに、一向死滅しないけれ共、青色を通らせると死滅します、過酸化水素が物質を酸化する力は「オゾン」よりは弱い要するに過酸化水素と「オゾン」とは共に極く少量空氣の中に雜つて居て、本來各種の黴菌を殺す力を備へて居るけれ共分量が極めて尠いからして、實際左程の効力を空氣中で發展するものとも思へませぬ、

それから空氣の中にはまだ大切な物質がある、それは水蒸氣であります、水蒸氣は常に空氣の中にありまして、其分量は甚だ種々に變化します、水蒸氣の分量は季節と風土と、それから場所に依りて違ひがあります、室內空氣にも水蒸氣が含まれてありまして、多くなると吾々の身體に有害になります、又體

溫調節の上にも影響を及ぼしまして、不快を感し、眩暈を催すやうな事があります、之れと反對に空氣に水蒸氣が尠くて餘り乾燥して居ると、又吾々の身體に有害作用を及ぼしまして、呼吸氣道の病に罹り聲がかれて來る事もあります、

空氣中の水蒸氣の量は、空氣の溫度に從ふて、變化するものであつて、溫度が高ければ水蒸氣を多量に含み、溫度低くければ水蒸氣の含量は少くなります、そうして一定の溫度では、其中に含まれる水蒸氣の量は、常に一定でありまして、之を溫度と申します、即ち一定の溫度に於て空氣の含有して居る水蒸氣の最大量を指すのであります、そうして此溫度は溫度の高低に依つて無論差異がありまして、低い溫度では少いけれ共溫度が高ければ溫度は大きくなります、然しながら溫度ー即ち一定の溫度で含み得べき水蒸氣の最大量が常に空氣中に含有せられてあるのではありませぬ、例へば空氣の溫度が華氏八十度とすると、此八十度に於て空氣の取り得る水蒸氣の最大量があるのでは無くして常に之れよりも少量の水蒸氣が含有せられて居るのであります、

水蒸氣は常に平均に空氣中に分配せられて居りまして、壓力を及ぼすものであります、それて空氣に水蒸氣が尠くて、乾燥して居れば、空氣の壓力が少くなりますからして晴雨計下降し、水蒸氣が多いと晴雨計は其度が上ります、

水蒸氣で飽和せられて居る空氣が冷却せられると、水滴を作り、霧が出來ます、それて夏期には溫度か高く、隨て空氣中に含有せられる水蒸氣の量が多いから、此空氣が夕刻に至りて冷えると茲に露が出來るのであります、雲、雨も此れと同じ理で出來るのであります、

水蒸氣の空氣中に含有せられて居る分量は、極めて大なる變化のあるものでありまして、此れは土地、水、それから空氣の溫度抔の關係から來るのであります、例へて申しますと、溫い空氣が廣い海面の上にあると此部分の空氣は多量の水蒸氣を含有する事

の出來る機會を持つて居りますからして、吹く風も濕つて居るけれ共、廣い平野の如き所にある空氣には水蒸氣が尠いからして、風も乾燥して居ります、空氣中の水蒸氣の含量は生物に向つて極めて大切なる關係を持つて居るものでありまして、濕潤な氣候は乾燥した氣候よりも、吾々に取つて有害でありまして、濕潤とくもり勝の天候は種々な病の源となる事は乾燥よりも多いのであります、例へば感冒、呼吸氣道の病、僂麻質斯、杯いふ病に罹り易うあります、

ペッテンコーフエル及びホイトの二氏の言ふ所に依ると、大人一日に約二千三百瓦の水を身體から出す其中で千四百瓦は尿や大便として出され、九百瓦は肺臓及び皮膚の呼吸に依りて、泄出せられる、併し之れは常に一定不變のものでは無くして、身體から出る水蒸氣の量は、空中の水蒸氣の量に關係するものであつて、空氣中の水蒸氣の量が尠ければ、空氣は尚多くの水蒸氣を取る事が出來る、隨て之れは生物の身體から取られる、それ故に身體から水を排出する量が殖える、

水が蒸發して、水蒸氣となるには、空氣流通の速度が大に影響する、其速度が大なれば、隨て蒸發する事が速かであります、

それから身體から水を出す多少は溫度にも關係します、それ故に身體から、水分を排出するといふ事は單に物理學的に說明すべきものでは無くして、生物の生理的作用に歸すべきものであります、

それから水分排泄には、食物の攝取も影響を及ぼすものであつて、大量に食を取るときは、水分を排出する事も亢進して來ます、

それならどの位の溫度ならば吾々の健康に害が無くて、どれ位なら害になるかといふ問題になると、一定の答へを與へる譯に參りませぬ、それは空氣の溫度の外に、色々な關係があつて、溫度、食物、勞働の如何、それから衣服といふやうなものゝ關係に依つて種々なる影響を蒙むるからであります、

その次に空氣の成分として申し述べなければならぬのは、炭酸瓦斯であります、炭酸瓦斯は、外氣にも、住室内にも含まれてあります、大氣の中には極尠く千容積の中に〇、三ある、市街では炭酸の含量は固より多い、炭酸瓦斯は、人間なり其他の動物なりが呼吸するに依つて發生する人は一時間に大約二十二リーテルの炭酸瓦斯を呼出する此れも中々大したものであります、それから物質の腐敗燃燒て起り、或は、鑛山とか地の割れ目抔からも自然に發生する、或は火山からも出る、そうして此等の種々な源から發生した炭酸瓦斯は、皆空氣に雜つて居りますけれ共、空氣中の炭酸瓦斯の分量といふものは餘り大した變動が無い、それは常に風があつて、タトへ一ケ所で多量の炭酸瓦斯が出來ても絶へず之を他に運搬して、恆に空氣中に平均に分配し、且つ植物があつて、之を吸收して酸素を放ちますからして決して外氣の中に炭酸瓦斯が大量に含まれるやうな事はありませぬ、

雨水や雪抔の中にも炭酸瓦斯が含まれてあります、人の注意ては、炭酸瓦斯の發生する事は、中々莫大なものであります、けれ共多くの人の研究に依るに空氣百に就いて炭酸瓦斯が以上に增す事は大抵ありませぬ、併し釀造所とか酵母を造る工場とかいふ場所では往々一%以上の炭酸瓦斯を發生します、それから鑛山抔では工夫の呼吸、燈火の爲に或は爆發の時に發生するから、空氣中に大量の炭酸瓦斯を雜へて居ります、こういふやうな所では、往々人の健康に危險がありますけれ共、吾々の居室では直接に危險を及ぼすやうな事はありませぬ、併し衛生的立場から言ふと、炭酸瓦斯の多少を測るのは極めて大切であります、

炭酸瓦斯の中では、人間動物は直に窒息して死んで了ふ、併し可なり多量の炭酸瓦斯に堪へる事か出來る、前に申上げました如く、普通空氣には千の中に〇、三位ありますけれ共住室抔で之れが增して〇、三が一から五位に增しますると頭痛がしたり、眩暈が

起つたり、胸の氣持が惡しくなり、肺病の素因を與ふるやうになつて來ます、それから非常に增加して空氣百の中に炭酸瓦斯が五から六といふやうになりますと蠟燭の火が消える、それから六乃至八といふ分量になると人間は窒息して死ぬる、古井、土藏抔ては炭酸瓦斯が多量にあつて往々之が窒息して死ぬる事があります、鑛山の坑道もそうであります、それ故に燈火を持つて這入つて見て、もし燈が消えたら中に入らない事になつて居ります、

炭酸瓦斯は、空氣よりも重いから、風でも無いと段々下の方に沈むそれて、釀造所土藏抔ては之れが他へ散らずに澤山に集つて居て、人に危害を與へるのであります、

外氣の中よりも、吾々の住室には炭酸瓦斯は固より多い、大約一千の空氣の中に〇、五位ある、燈火の爲め、又は人の呼吸の爲めに無論炭酸瓦斯は增加する、殊に日本の家屋では、火鉢を盛に使ひますから此れが爲めに發生する炭酸瓦斯の量も中々多い、室内空氣の善惡を知る標準としては炭酸瓦斯がどれ位含まれてあるかを定めるのであります、普通吾々の居室では炭酸瓦斯を空氣千に付き一の割合を超えてはならぬといふ事になつて居ります、炭酸瓦斯が多量に發生すると他の有毒な瓦斯が發生するから、炭酸瓦斯が發生する事が多いと吾々の身體に有害になつて來ます、

それから空氣の中には、酸化炭素といふものがあるこれは瓦斯の燃ゆる時に發生するものでありまして、例へば烟突の中から出る瓦斯の中にもありまするし、それから石炭瓦斯の管が破れて居る場合抔にも空中に此酸化炭素を含んで居ります、我國では火鉢、コタツを用ひますから室内には酸化炭素があります、酸化炭素は多くなると有毒作用を及ぼします烟突があれば瓦斯は是れから去りますけれ共、烟出しが無いと室内に酸化炭素が多量に集まり中毒を起して頭痛眩暈を起し遂に人事下省になつて倒れる事があります、殊にコタツでは此有毒瓦斯が去る事が

出來ないから、時として危險な事があります、
そこで私はコタツといふもは甚だイカヌものであるといふ事を以前から信じて居ります、コタツは前申しましたやうに炭酸瓦斯や酸化炭素のやうな吾々の健康上有害な瓦斯を發生するものでありまして、室内空氣を不潔にする事實に夥しいものであります、そうでなくとも吾々の居室は呼吸や燈火、火鉢杯の爲めに中々多量の炭酸瓦斯を發生します、其他種々な點から言ふもコタツは實に非文明な品で、一日も早く之を全廢せられむ事を希望するのであります、
心ヨク形を正すといふ事がありまして、心の持方に依りて、吾々は吾々の姿勢を正しく保ち、キチンとして居る事が出來ますそれ故に人は其人の姿勢、擧動、衣服の着具合杯を見れば大抵其人の氣質性格が知れるものであります、服裝のキチンとして居らぬやうな人物は大抵餘り心の取締も善くない人のやうに私は思つて居ります、所が之れと反對に今度は身體の姿勢が正しくなく、服裝の具合もキチンとして居らぬと矢張り心の方の取締方も之に伴ふて、キチンとして居ないやうになるのも事實であろうと思ふ
小說を讀むのなら寢轉んで居ても澤山でありますが眞面目な書物杯を見たりする場合には、――特別に豪い人は別として――先づ普通の人ではドーモ出來難い事であらうと思ひます、それでコタツ杯に這入り込むで居るとドーモ身體がダラシなくなつて來て眞面目な仕事は到底出來ぬ、それから人に依ると頭痛を覺ゆる人もある、或は眠くなる、コタツから急に外に出るとヨク感冒に侵さるゝ事がある、又コタツは色々な惡徳の源ともなる、殊に年の若い人杯が無暗にコタツ杯に這入り込むのはドノ點から言ふも實に不都合であると私は思つて居ます、それからコタツの火が夜中杯に消える事があるが爲め、感冒に侵される事も隨分多い、コタツを全廢しても決して寒くて夜分寢られぬといふやうな心配は無い、其他に充分煖を取る方法はあります、それ故に私は此コタツと云ものは是非共全廢しなければイカンと堅く

信じて居ります、

それで話しが大分脇道に入りましたが、その次に空氣中の成分として申し述べますのは皆さんの御承知の「アンモニア」であります「アンモニア」は極く少量に空氣の中に含まれてあります、之れは窒素を含んて居る有機物の敗腐に依つて發生しまして大氣の中に雜るのであります、人間動物の排泄物の腐敗の爲めに盛に發生致します、それ故に不潔な便所抔には多量に「アンモニア」がありまして吾々の鼻に強く刺戟します、之れは有害てあります、

其他空中にはクロル、鹽酸抔いふものも工場ては發生します、

その外皮膚が不潔な場合には、汗が黴菌の働きて分解せられ、一種の臭氣ある物質が出て空氣にまざる是れは腸管の中て腐敗現象が起つた場合にも起つて來ます、即ち排泄物が永く棄てられずに放置してある場合抔に發生して來ます、

先づ以上大略空氣中には何々が含まれてあるものかをザット申し述べましたから是から、

空氣の理學的性狀

に就いて少く述べましよう、その中で先づ

空氣の溫度

から始めましよう、地球表面では各々所に依りて種々に溫度の差異があります、此空氣の溫度は一は直接に一は間接に太陽から來るのであります、地球は第一に太陽から熱を受け、第二には固有の熱を持つて居る、それは地球がモト灼熱の狀況て、熱かつた時代からの熱がある、第三には木材とか石炭とかいふやうな有機物質が燃燒するに依つて熱が起る、其熱が地球表面に保たれてある、それてモシ地球表面から熱が他へ導き去られなければ、地球表面及び大氣の溫度は太陽の影響に依りて、絶へず增す譯てありますけれ共其熱は寒い方へ常に放散しますから地球の受けた熱は其幾分は失はれるのであります、

それて土地の溫度は所に依つて相違がありまして、且つ同じ場所ても亦色々に變化します、即ち溫度は

其土地の水の分配の狀況、土地の高低に依つて著しい相違があります、

空氣の溫度と人體との關係

人の體溫は健康體では三十七度といふ事になつて居ります、それで吾々は此體溫を常に維持して行かなければなりませぬ、體溫の昇降は即ち何所かに何か病のある徴であります、即ち吾々の生存といふものは、此固有の體溫と直接な關係があるのであります此體溫が少しても上るか又は下降すると到底吾々は平氣で之れに堪へる事は出來ませぬ、吾々の身體の中では、常に其生活機轉に依りて、熱が發生致しまして、此熱が恒に周圍に向つて放散せられるものでありますからして、人の身體に對する空氣の溫度の關係は甚だ緊要なものである事が明かてありましよう、

そこて吾々の大體に發生する熱は如何にして、起るものてあるかと申しますと、それは攝取した食物の燃燒作用から起スものてありまして、此熱量は中々大したものてあります、これは人の年齢營養の狀況身體勞働の具合抔に從ふて色々てありますが大約三百万カロリー（カロリーとは一瓦の水を〇度から一度（攝氏）に暖むるに要する熱量を指します）の熱といふものが種々の道を通て身體から出て行きます、通常身體から出る熱量を百とすると皮膚から出る熱は八十分て肺から出るのか二十分てある、そうして食物飮料を溫むる爲めに用ひられるのが僅かに二分てあります、是れ故に身體の溫度は皮膚から一番多量に外へ出て行きます、皮膚の表面と肺臟全面とを比較しますと丁度皮膚の面積の百倍に當りますけれ共、肺から出て行く熱量は皮膚から出るのと比べますと四分の一に過きませぬ此理は皮膚から溫の失はれるのは第一放散第二傳導第三蒸發此の三つの方法に依るからてあります、

それて吾々を取巻いて居る空氣の溫度が低ければ低い程皮膚から傳導と放散の爲めに去る熱量は愈々多くなります、風が吹いたり又は扇子を使つて風を起

しますと絶へず新しい空氣がやつて來て身體に觸れ皮膚から熱を奪ひますからして、冷く感ずるのであります、

それから衣服は傳導及び放散の爲めにも、體溫の奪はれる事に影響を及ぼします、是れは衣服の章に至つて御話し申しましよう、

空氣の溫度が上れば放散と傳導とで體溫の奪はるる事が增加するが水分の蒸發の爲めに體溫の失はれるのは尠い、

皮膚から水分の蒸發するのは空氣の溫度と濕度とに關係する、此蒸發の爲めに失ふ溫熱は中々大きいもので身體に發生する熱全量の三分の一から二分の一位も奪はれます、

人間は種々なる溫度の下に障害なく生活し、而かも自己の體溫を維持する事が出來ます、それて人は隨分高溫度又は低溫度に慣れるものであります、併し其溫度の變化を感ずるのであります、最も寒い所は西比利亞の一地方であるが茲は零度以下六十八度で最も暑いのは紅海の近所此所は攝氏六十五度であります、

低い溫度に堪へて吾々は隨分大きな仕事が出來る、之れは衣服を厚く着たり、室の中に居たり、或は盛に食事を取つて、身體を溫むる事が出來るからであります、

併しながら此等の準備の無いのに急に溫度が下降すると非常に體溫が奪はれまして、凍えます、即ち

凍傷

を起します、凍傷は局所的に起る事がある、例へば充分に衣服から包まれて無い所の鼻とか耳とか手足抔にヨク起つて來ます、或は時としては寒い所で、食物の不足かあると全身凍傷に罹る事もあります、此時は疲勞を感し、眠くなり、脈が弱くなり、呼吸は緩徐になり、神經や筋肉が痲痺して體溫下降し、血液は凝固して、遂に死んで了ひます、

それて此凍傷といふものはどうして起るかといふに耳とか鼻とか或は手足抔の如くに外氣に露出せられ

てある部分に寒冷が働くと、其部分の血管を始めは收縮して、蒼白色になりますが永く此寒冷が作用すると遂には血管が麻痺して擴大の血行が妨げられて后には反對に其部分の皮膚は少し青味を帶びた赤色になります、冬の寒い時に吾々が外出致しますと、寒いにも拘らず顏の色殊に鼻の先きと頬とは赤くなつて來るのは皆樣が御承知の通りてあります、是れは前に申しました理で起つて來るので、血管が麻痺して、血液の循環が滯り、殊に靜脈血が滯するに依るのであります、時としては其の爲め赤くなつた部分が少しく膨れ上つて來る事もあります、甚しくなりますと水ぶくれが出來之れが破れて、傷を造る事もあります、そうして其部分には始めは、癢味を覺えますけれ共、後には全く感覺が無なつて來ます、それから傷が甚しくなくつて參りまして、黒くなつて、堅いものに變して來ると、多くは痛みがあります、

凍傷て倒れて居るものを取扱ふ時には、急に温い室に入れるのは危險てありますから、始め温くない室に入れ、冷水を付けた手拭や雪抔て身體を摩擦し次に稍や温い室に入れるといふやうに漸次に温い所に入れるやうにし、急劇に温かくするのは危險てあります、

その次には低温度が吾々の身體に働くと

感冒

に罹ります、感冒は色々の病に罹る素質を與へますから注意しなければなりませぬ、併し感冒に罹るのは單に低い温度が働いたといふのみては、無いのてありまして、前に御話した如く、零度以下何十度といふ寒い所に、何の障害をも蒙むらずに生存して行く人もあります、それてありますから單に冷いのみが感冒の源てはありませぬ、即ち温度の昇降の變化に基くのてあつて、急劇に温度が低くなるとかいふ事のある爲め往々感冒に侵されます、或は吾々の皮膚の温熱調節の機能が衰へて居る場合抔にヨク感冒に襲はれるのてあります、

古昔から風は四百四病の源であると謂つて居るが是れは全く其の通りであつて、感冒は實に種々な病を誘發しまして、知らぬ間に恐しい病が吾々の身體に潜伏して居る場合があります、是れ迄の所で、寒冷が吾々の身體に働いた場合に起る障害を申し述へましたが是れから高い温度が働いたが爲めに起る事柄に就いて大體の所を申し述へましよう、

熱射病と日射病

それで夏の暑い時に郊外で烈しい勞働をするとか或は行軍を永く續けるとそれが爲めに一種の病に罹る之を熱射病と申します、熱射病は、身體の勞働と、周圍の空氣温度の高いのと高熱とが原因となつて起りまして、火夫抔は非常に暑い場所で勞働して居りますからして、往々此熱射病に侵される事があります、吾々の身體に太陽が直接に働くと日射病に罹ります、此病に侵されると、身體に熱が非常に起り、身體から此温熱を外に出すのが妨げられ、其の爲めに體温愈々昇騰して、來るのであります、それで直接に太陽の働を受けても、又太陽は働かなくとも熱い所で勞働としても同じやうな症狀を呈する病に罹るのであります、此時の症狀如何であるかといふに、體温が非常に昇騰して來て人事不省となつて倒れ、嘔吐を催し痙攣を發し、呼吸が止つて了ひます普通の場合には死に至らずして回復しますが往々之れが爲めに死する事もあります、

日射病に罹らぬやうにするには夏の暑い時に外で勞働をしないようにするのが宜しい、或は熱を吸收せずして、反射する所の白色の帽を被つて、熱の働くのを防がなければなりませぬ、

日射病に罹つた者に對する手當は日蔭のある所に運び、身體を冷やす、水が飲める時は水を與へ、或は食鹽水を浣腸して身體に水を送り込む次には皮膚を刺戟し、清涼劑で身體を興奮さする手當をするのであります、或は手拭に冷水を浸し之を身體に當てる、

空氣の温度が高いと種々な傳染病例へは虎列拉、チ

フス、赤痢のやうな病氣が流行し、溫度が低くて寒い時には呼吸器道の病氣や凍傷杯を發して來ます、
是れからは、

空氣の壓

の事を述へて見ましよう、大氣は一定の壓と此地球の表面に及ぼして居りまして、此壓は地球の中心に向ふ程高く中心を遠ざかる程低くなります、之れ故に高山の上の氣壓は平地や海面に較へますと非常に低い、通常海面では氣壓は水銀柱七百六十ミリメートルとなつて居りますが我富士山は海拔三千七百八十五メートルて其頂上ては四百九十ミリの氣壓てあるとの事てす、氣壓を測るといふ事は天候をト知する上に大切てあります、
氣壓は絕へず變化するが此れは直接吾々の健康上に影響を及ぼす事はありませぬ、併し急劇に甚しい變化を來すと害になります、
氣壓が著しく急劇に變化すると、耳、鼻、口、肺、胃杯から出血し、耳が聞えなくなつて來ます、或は人事不省に陷り、急に死する事もあります、之れは高山に登り又は輕氣球て高く昇つた場合にヨク起るものてあります、之を

山岳病

と謂ひます、之れは三千メートル以上の高地て起る此時には呼吸困難が起り、脉の數が增し、體が疲勞し、眩暈を發し、下痢、嘔吐を生じて來て、出血を致します、それが甚しくなつて來ると遂に人事不省になつて死ぬ事があります、
それから高山ては、氣壓が大變に低くて、空氣が稀薄てありますから酸素の量が大に減少して居ります富士山の頂上ては空氣中の酸素の量を平地の三分の一位少いといふ事てあります、酸素は吾々の呼吸に欠くへからさるものてありまして、吾々が酸素を吸ふのを空氣中の酸素の量に關係するのてなく、主として呼吸數に關係するのてあるから、空氣中の酸素が少くなると呼吸數が多くなる必要がある、高山に登ると先つ呼吸が多くなり、心臟の働きも盛にな

つて來るのであります、
それから氣壓が低くて、空氣か極めて稀薄である所では、物を養てもヨク養えぬ、普通攝氏百度て水は沸騰するけれ共、高山では百度以下で沸騰する富士山では九十度以下で沸騰するそうであります、
以上氣壓の低い場合の御話を致しましたから此から氣壓の高い時の事と述へましよう、軍艦の沈んだのを引揚けるとか、棒杭をうち込む時抔には海の底に入りて仕事する人がありますが、此場合には其人は大變に高い氣壓のある仕掛のある所に居るのであります、何故なれば其働く人の居る所へ強壓搾した空氣を入て壓を高くしなければ外からズン／＼水が入つて來るからであります、強い壓でないと外圍の壓と平均を保つ事が出來ないからであります、通常の氣壓の所から急に此高い氣壓の場所に入つたり又は反對に高い氣壓の所から低氣壓の場所に移ると色々な危險がありますから、其移行を急劇にしないやうに徐々に移り行やうな設備が必要なのであります、

急劇に高氣壓の所に行くと吾々の身體にドンナ變化を來すかと申しますと先づ暖く感じ皮膚の蒸發作用が妨げられ、耳が疼くなり、
それから高氣壓の所では、少しの音でも大變に強く聞えたり、物の味が分らなくなり、嗅覺も無くなり渇も無くなりまして、呼吸の數が減して來る、酸素が多いから、燈火も強く光る、
高氣壓の所から急に低氣壓の所に移ると耳が強く侵されて、更に聞えなくなり、耳に炎症を發し、耳、鼻、口、肺、胃から出血し、人事不省に陷りて遂に死する、それは氣壓の高い爲めに血液中に瓦斯を壓搾せられた狀況にあつたものが氣壓變化の爲めに急に膨脹するからの事であります、
そこで此氣壓といふのは、吾々の身體に大なる影響を及ぼすものでありまして、且つ其氣壓を計る事を天候の模樣を豫知する上にも極めて必要な事柄であります、溫度と同じやうに氣壓も急劇に甚しい變化が起つた時に始めて吾々の身體に大なる害を與へる

のでありますその次には

空氣の運動

の事を述べましよう、空氣は絶えず運動して居るものであります、空氣の運動するのは、空氣の壓力の差異から起つて來るのであります、又間接には空氣の層に溫度の差異があつたり、水蒸氣の多少の爲め空氣に流動が起るのであります、熱帶の地方では空氣の溫度の爲めに起るのが最も強くて、茲では空氣は大變に膨脹しまして、輕いから上の方に昇つて行きます、併し其速度は極めて遲いそれ故に少しも空氣は動いて居ないやうに見えます、

空氣の運動は即ち風であつて、此風にも種々の強弱がありまして、軟風、強風、暴風、颶風といふやうな區別があります、風の方向を知るには、色々の裝置があります、誰にも出來るのは蠟燭に火を附けて見れば全く靜穩であれば火を直立して居る筈であるけれ共、風が少しでもあると焰が其方向に從ふて傾く又は指に水を附けて、空中に直立させて試みると風の來る方向は冷く感ずる、或は高い所から紙の切れを落して見ても判る、或は木のある所では木の葉の動き具合でも分る、

風の強弱を測るには風計といふものを用ひます、此れで速度を測つて軟風、強風、暴風、颶風といふやうな區別を立てるのであります、

風の衛生上に及ぼす關係

風は衛生上から見ると種々な大切な意味のあるものであります、風計で測る事の出來ぬやうな弱い風でも身體に影響を及ぼすといふ事であります、強い風が吹くと身體を強く冷却しますからして、感冒に罹る事がある、冬の寒い時杯に戶の隙間杯から入つて來る風は誠に不快なものでありまして、之れが爲めにヨク感冒に罹りますそれから、風が強く吹くと種々な黴菌を他へ飛散させますから危險であります、或は塵埃を吹き飛ばし、鼻道、眼、呼吸器等へ塵が入りまして、是亦病氣の源になります、東京のやうに塵の多い風の吹く所即ち人のヨク言ふ紅塵万丈

の裡ですナ、紅塵万丈といふ言葉は立派でありますけれ共、實は衞生上から云ふと甚だ宜しくありませぬ、出來る限り此紅塵万丈を避けなければなりませぬ、

併しながら風は亦大なる利益を吾々に與へます、風が吹く爲めに常に空氣が新鮮にせられるといふ益があります、もしも少しも風が吹かぬと空氣は益々不潔になつて何時迄も停滯して困る譯になります、殊に人口の多い都市抔ては空氣は非常に不潔でありますから、風の爲めに常に新鮮にせられなくてはなりませぬ、凡て物の停滯といふ事は宜しくない事で、例へば水でも常に動かずに停滯して居ると腐敗する事が早い、池の水抔は少しも動かずに居ると腐敗する、庭に池があつて風景が宜しい抔と言つて喜んで居ても、水の腐らないやうな仕掛がして無いと、風景こそ立派でも、衞生上から言ふと決して立派ではありませぬ、それから吾々の身體に就いて言ふに腸の中に其内容が永く停滯して居ると亦色々な病を起して來る、榮養と排泄とがウマク調子を揃へて、行はれぬと、吾々は病氣に罹るのであります、社會に於ても、學問の無いツマラヌ人間はかりが停滯して居ては社會は少しも進歩せぬから、教育を盛んにして、教育の方法を改良して、ドシ〳〵有爲の人間を養成して、新陳代謝を行はなければなりませぬ、

暑い時には、扇子を用ひたり、或は電氣の仕掛けて人工的の風を起させて暑い苦しみを去らうと勉める是れは風の爲めに體温を奪はせる目的であります、空氣の動くが爲めに常に新しい空氣が身體に觸れて體温を取つて行きます、それ故に風は皮膚からの蒸發、體温に影響を及ぼすものであります、

霧、雲、雪、雨

空氣の温度が下つて、空中の水蒸氣が收縮すると霧雲、雪、雨を生ずるのであります、

空氣中に塵埃があると其塵を中心として、水蒸氣が收縮して霧が出來る、それ故に塵の多い都市てはよく霧が發生する、それから高い所で水蒸氣が收縮す

ると雲となる、之は水蒸氣を含んで居る空氣が冷い所に行いて出來るのであります、そうして霧や雲となつて水蒸氣の收縮の度を增して、水滴となると最早空中に飛散する事が出來ぬから遂に雨となつて地上に落ちて來る、それから結氷點以下に達すると雪となつて來る、

雨の衛生上に及ぼす關係

雨水の中にはアンモニア、硝酸のやうなものもあるが別に大した影響を及ぼすやうな事は無い、

雨は吾々の健康に對して種々な影響を及ぼす先づ雨に吾々が逢ふと身體を冷却させるから色々な病氣の源を造る、併しながら雨が降ると空氣中に浮游して居る塵埃を少くする効があります、それ故に晴天の日と雨天の日とに空氣を調へて見ると塵埃細菌抔の數は雨天の日には著しく減少して居ります、即ち雨は風と同じく空氣を淸潔にする働を以て居ります、雨は傳染病と大切な關係がありまして、印度では虎列拉の流行する時に雨が多くなると其流行が止むといふ事であります、

雨は空氣中の細菌や塵埃を取り去りまして空氣を淸潔にしますけれ共、雨が多いと土地に濕氣を多く含む事になりますから玆では細菌の繁殖に都合がヨクなり細菌が殖えるから、吾々の身體健康上には良くない、

雨は植物の繁殖上其他農業上大切なものである事は御話するに及びませぬ、

それから雨が多くなりますと、是れから後に御話し申します地下水に影響しまして、地下水が多くなり雨が少いと地下水も尠くなります　（以下次號）



叢談

月經閉止期に關する智識の必要

醫學士　ふわ子君

今はむかし千何百年といふ以前、人文の度も未だ今日までは進歩せず、世界のもの皆が遙かく幼稚てあつて、氣力をうばひ、心身を害する事故物件が極めて僅かであつた頃、一人の聖人は衆人に向て『お前達は知るべきことを知らんでゐると、そのために命を亡くなす樣な不運なめに逢ふぞよ』と警告したことがありましたが、今日の如く複雜な世の中て、不必要な苦勞心配が雲の如くに群がつて、徒らに心身を蕩費させる時代にあつては、須らく重要な者と重要ならざるものとを擇り分け、專ら前者に向つて精力を傾くべきであります。

從て或重要なる事故に關する智識の涵養は、極めて切實なる急務であります。

少年の時は少年の智識、青年の時は青年の智識、中年老年亦共にその時代に相當な智識を要するものでこれがやがて現在の安危に關し、且つ將來の諸問題に密接なる關係を有するものであります。

月經の閉止る時代の婦人、即ち四十歲から四十五六歲までの婦人も、また其時代に適切重要な注意について之を知らねばなりません

月經閉止の時代

は今後の生活期に入る關所のやうなもので、此時代には心身の變化と云ふ多少の苦痛は免れないが、一度びこれを通り越せば、再び鳥舞ひ花歌ふ春の野邊に、喜樂と幸福とを享受けることが出來るのであります。

四十餘年の星霜を家事と世事との雨かぜに、日がな

時がな打ちつけられて、漸くに辿り着いた閉經期と云ふ峠は、こゝぞ婦人の關ヶ原で、今後數十年の餘命が果して活き甲斐あるか否かは、一にこゝに決するのであります。されば婦人が此峠に差しかゝるには、充分なる覺悟と用意とを以て嶮路峻坂に屈せぬやうにし、且つ能く地の理をわきまへて、かりそめにも道踏み迷ふて、思はぬ不覺をとらぬのが肝要であります、月經閉止期は或は

女子變換期

ともいひ、女子の身體が發達する經過の一階級で、無邪氣な少女から、色慾の發達する所謂懷春期になり、次で產み盛り世盛りと云ふ壯年期に入り、此壯年期から月經閉止期と云ふ時代に變遷り行くのであります。

多くの婦人は早晚我身に變化のあるべき時代の來るのを豫想しては居るが、其變化の如何なものかに至つては茫乎として、朧に之を知るに止まるものであります「無論これは一般の婦人の上から云ふことで、或者は月經閉止期に向つて充分の智識と用意とを備へて居るものがあります、然しながら又餘りに心配して神經を起し、却てその經過を不良するものもあります。

女子變換の時期だと云つてさのみは恐るゝに足らぬものであります。二十代から三十代の間に經驗する分娩と云ふ難關も容易に通り拔けられるやうに變換期と云ふ關所とても亦身體の構造が、夫れに堪へられるやうに變化するので、左まで困難も無く過ぎ去ることが出來るのであります、只その際如何にして身を守り、心を勵まし、其本性を害はぬやうにすべきかは、大に注意すべきところであります。

月經閉止とは何か、女子變換期とは何か

此質問に對しては今まであつた月經が止まつて、身體に或變化が來たといふ答案ばかりでは不足で更に何か書き足すところが無ければなりません。卽ち月經の閉止は子を生むと云ふ生殖的の生活から離れて、更に慈善公共の事業をなすべき活動の天地

に入るのであります。その餘力と感化とを家庭以外に及ぼすべき有益なる生涯に入るのでありますす此の如く生殖的生活と無生殖的生活との境界がすなはち月經閉止期であつて、肉體的にも精神的にも共に注意すべき一大危機であります。

姙娠中の養生(一)

K、K、生君

姙娠はもと〳〵生理的の事ではあるけれども、屢々病氣といふ程の狀態にまで進んで行つて、姙娠中、しまひまで他人の看護を要する場合が往々ある、流產なり又は早產なりの惧れがあれば、數月間も病蓐に居らねばならぬ事は勿論であるけれども、まづ通例は姙娠の終りの數ケ月といふもの、お腹が非常に大きくなつて、自分の身體を充分に仕末するのが切なくなり、出產又は產後の肥立ちに必要なる身の處置が出來なくなるといふのである。

姙婦の養生に就きては、お話しすべき事が澤山あるが、肝要なる點を大略申す事にしませう

一、凡べてを清潔にすると

(イ)全身浴、日本では、人々の身體が一般に非常にきれいでありますから、この事を多く云ふ必要はないかも知れませんが、西洋諸國では、お湯に入る事が甚だ少い樣に聞いてゐます、殊に獨逸では姙娠の始めの四ケ月間は沐浴をしない風習があるといふが、これは誠に宜くない、お湯の溫度さへ加減して、あんまり熱くなく、またぬるくもない樣にすれば、そのために血液の循環が、ひどく影響をうける事がないから、少しも障りはない、お湯の溫度は西洋では大概攝氏三〇ー三三度位でありますが、日本人は習慣上、これより數度高いお湯に入るのが普通であります、血液の豐かな婦人では湯の溫度を低くするし、感冒を引きやすい人ならば熱くした方が宜しい、ぬるい熱いと申した處で、大體右に述べた溫度を超えぬ樣にするが宜しいのである、ぬるければさし湯

をするなり、又は火を燃くなりするのは當然であるが、浴湯は熱いのよりはむしろぬるい方が衛生上よろしいといふ事を御承知ありたい。

湯屋に行くならば、冬などは何の事、成るべく風靜なる温かい日を撰ばねばならぬ、これは感冒を引かぬ用心である、湯屋では滑つて轉ばぬ樣に注意する事が大切である、何も見つともないからと云ふ譯てはないが、總じて轉ぶといふ事は姙婦には殊の外危險だからである、手傳つて洗ふなり、拭くなりしてやる時は、下腹部に餘計に氣をつけて、ひどく壓さぬ樣にせねばならぬ、乳房は柔かな布て靜かに拭くに止め、乳首を傷けない樣にせねばならぬ。

浴湯に何か藥品を加へるとか、海水温浴をやるとか或は温泉に行くとかいふ樣な事は、よろしくない、これは溫坐浴又は脚浴と同じ樣に、下腹部に充血を來すのてわるいと申すのてある、

(ロ)外陰部の洗滌、煑沸水又は稀薄なる消毒液(但昇汞水は用ふべからず)て外陰部を洗ふ事は、毎日やらねばならぬ、この爲めには、脫脂綿を用ふるのが最便利てある、殊に只だ煑沸水のみてやる時は是非脫脂綿に限る、海綿も使ふ事は使ふが、病毒を運搬して來る恐が多いから用ひぬ方がよい、多脂性の婦人ては殊に多いが、さなくとも尿の餘滴が流れて陰部に附着して居ると、その分解によつて惡臭を生ずる事があるから、以上の清潔法を廢すると、直ちに不快の感を起さしむるのみならず、容易に傳染病毒に感染するの危險を生じて來る、若し姙婦が臥蓐中てあれば、楔形のさしこみの器を使つて洗ふのてある、この時は、器の後端の方に綿を敷いて、流れ落ちる液をうける樣にするがよい、さもなければ、いかに注意しても、洗つた液の餘滴が、床の上に落ちる樣になつて後て氣持が惡い、それのみてなく、かうすれば瘦せた人ても大きに痛みが無くなつて、至極好都合てある、

姙婦の床を交換してやる際に忘れてならぬ事は、姙娠の末期には脂肪の増加、羊水(胎兒を包んてゐる

液體)の増量、胎兒の發育等によつて、姙婦の體重が著しく増加してゐる事である、それ故に、姙婦自身の力を恃みすぎて過度の勞作をさせるよりは、早く充分な助力を與へて、樂に動ける樣にしてやらねばならぬ。

(ハ)口と齒、姙娠中は口と齒とに、特別の注意がいる、若しこれを怠れば、齒のわるい部分は益周圍に廣がつて、姙娠中の齒痛を起す事がなか〳〵多いからである、口には食物の殘渣等がないやうに常にきれいに掃除せねばならぬ、わるい齒の養生に使ふ藥で消毒的の効能充分なるものは、次の如き處方による、

アルミニス	五、〇
サルヴィヤ水	二八〇、〇
精製蜂蜜	約三〇〇、〇

此藥劑一食匙を、使用の度毎に同量の水に薄め、口を洗ひ又は含嗽をする際には、効力を充分ならしむるために暫時口中に含んで居るが宜しい、惡い齒は成るべく速かに齒科醫に療治して貰はねばならぬ、

二、適度に運動をすると

姙婦に、下肢の運動を可なり充分にさせる事は必要である、姙娠すると、專ら之のみを大切がつて、はれものでもかばふ樣に、只々ソーッとして置き自分の身體もジッドしてゐる人があるが、これ程有害な事はないのである、全體、姙婦の養生と申した處で平常の生活と根本から異つたものではない、一つ注意せねばならぬ事は、何事によらず、遣りすぎをせぬといふ點である、運動でも其通り、遣りすぎて過度に疲勞する事は丈は避けねばならぬ。

新鮮な空氣中で運動すれば、第一に便通が具合よくなる、腦の充血もなくなるから頭痛や、頭の重くなる事がない、或は時ならぬに氣を失つたり又其外のいろ〳〵な神經的の症狀を去るのに最良法であるといふてよい、そればかりでなく、出産を容易にする上にも大なる効果がある、何の位の効能があるかといふ事は、吾々が常に人間について實驗して居る計

りてなく、犬に於ても同樣な觀察がなされてゐる、若しも牝犬が、姙娠中毎日運動を禁じられてゐると仔を產むのが非常に困難になるこれは、著明な事實であつて、原因は出產時に働くべき筋肉が弛緩性になるといふ事に歸着する、それ故に、姙娠中だからといふて、仕事を悉く人に任せて、づら〱遊んでばかり居るのは、結局自分の損である、

舞蹈や乘馬をする人は、日本の婦人に餘り多くないから、態々申さずとも事であるが、姙娠中は無論よくないのである、ガタ馬車もよくない、立派な馬車や俥でも、わるい道路を乘るのはいけない、近い道ならば靜かに步行した方がよい、自轉車も矢張りいけない、

汽車で大旅行をやるのは大きにわるい、若し止むを得なければ、成るべく短かく切つてソロ〱やるべし、又無鐵砲な新婚旅行で、最大不幸の醸さるゝ事多きは歎息の至りである、花嫁が結婚するや否や、早くも身重になるといふ例は、隨分澤山あるのに、新婚の樂みて有頂天になつてゐる若き夫婦は、こゝのホテルよりかしこのホテル、此名所から彼古跡とセツセツと居を移し、又は演劇とか博覽會とかへ、日もこれ足らぬばかりに物見遊山をなし、休息する暇が非常に少くなる、偶々知己の人にでも逢つて、餘り過激な旅行は宜しくないとか何とか、親切な注意をして貰つても多くは之を尊敬せず、それだけならばまだしもだが、何か妙な意味にとつて一向聽き入れない、さうかうして居る中に、花嫁は忽ち流產といふ不幸な目に逢つて喫驚し、過激な旅行の爲だといふ事を始めて醫者から言ひ聞かされるといふ事實が多い、いや、かゝる事實は西洋諸國に別して多いので、日本ではまた新婚旅行といふ事も取り立てていふ程流行らないから、やかましく云はないでもよからうが、追々にはやる樣になるであらうから、一應御注意をして置くのである、新婚旅行をするならば、閑靜な、田舍か、或は山間に靜かに滯在するのがよい、さすれば花嫁を病人にして家路に連れ房

る様な危険はない、
急に立つたり坐つたり、梯子段を激しく昇降したり重いものを擔つたり、度々屈む様な仕事をしたりする様な事は、すべて姙婦には禁物である、

三、食物のこと

食事はひどく平生と變へる必要はない、只姙娠中は不消化なもの並に強い衝動性の食物（とうがらし、しやうが、わさび、からしの類）を避け、又食べすぎをせぬ様にすれば宜しい「二人分」食べるといふ考へがあるかも知れぬが、それは間違つてゐる、姙娠中は、外の時よりも、食べた物がよく消化して充分に吸收されるのであるから、胎兒の分とて特別に食べる必要はない、不消化な食物といふのは、一般に申せばあぶらげ、てんぷら、水禽（鴨、あひるの如き）豚等の脂肪多き物である、魚では鰻が一番いけない、

アルコホールに對しては、多量が非常に六ケしいが、通常の酒類ならば、まづ嚴禁せねばならぬ、何故ならば、それがため、心臓の働が餘りひどく高まるばかりでなく、少し感じやすい人々では、子宮に時ならぬ收縮を來して流産の惧を生ずる事があるからである、同様な理由で、強い茶と珈琲とも用ひぬ方が宜しい、

姙娠時の特種なる嗜好は、何等有害の恐なき限は滿足させて宜しい（梅、みかん其他の如き）

四、便通のこと

便通は吾々の生活上極めて重要な事で、具合よく便通があるか或は秘結するかは、日常生活の幸福に直接の影響を有するものだといふ事が出來る、さうしてこの便秘といふものは、隨分多く世人を苦しめつゝある一種の病氣で、皆夫々の手當を要するが殊に姙婦では外の關係があるために、特別の注意が入るのである、

（一）食物、秘結を防ぎて具合よき便通を促がすために、吾々はまづ第一に藥用によらぬ方法を取らうとするのである、それには食物の攝生と身體の運動とが最

も大切である、飮食物には、成るべく便秘性のものを避けて、消化の速度を增させる樣なものを以て之に代へる、飮料には赤酒と茶などが多く用ひられ、麥飯は米飯よりも便通に宜いとせらる、野菜と果物とは食事每に是非なくてならぬものである、蜂蜜も効能がある、胃に甚だしい障害がなければ、就寢前に生な果物を食べる事がよい、果物は季節によつていろ〳〵なものがあつて、何れも便通を促がす性質を有して居るが、一番よいのは、林檎一つを皮を剝かずに食べる事であります、林檎の皮を剝かずに食べる理由は、皮の嚙み碎かれた細片が、機械的に腸を刺戟し隨て便通を促がすからである、英國では、この點に於てどれ程林檎を貴重がつて居るか、英國の諺にかういふ事がある、「寢床に就く前に林檎を食べて居れば、醫者を乞食にして仕舞ふ」(Eating an apple going to bed, makes the doctor beg his bread)これは、「腹八分に醫者いらず」といふ日本の諺に似た樣な意味である、

コップ一杯の冷水を、每早朝空腹時に呑んで、一定時刻に大便の通じをつける樣にするのは大切な事であります、便通は朝食後が一番便利のやうである、それから、呑む水は注意しなければならない、成るべくは、夜前煮沸して置いた水の方が宜しい、日本人は、大便の通ずる時小便も大抵共に通じますが、西洋人は、大便と小便とを別々の時にする習慣になつてゐる、それ故、これも日本人にはわざ〳〵云ふ迄もないが、兎に角、朝大便の通じる時に小便も通じるやうにためて置くがよい、何となれば排尿が一つの刺戟になつて腸の運動が盛になり、大便の通じを樂にするからである、

(二)運動、便通は腸の運動によつて起る、腸の運動は食物の刺戟によつて起るが、全身の運動も亦大なる關係をもつて居る、つまり全身が動きさへすれば腸も亦動くといふ譯なのであります、であるから、姙娠中、過激にならないだけは成るべく餘計に働くといふのが、姙娠それ自身によい許りでなく、便通の

上から考へても、大きに必要な事である、
以上述べた様な規則を嚴重に守つて居れば、大抵効果が現はれて來る、どうしてもこれて甘く行かなければ止むを得ず外の方法を用ひる、
(三)グリスリン坐藥、これは肛門からさしこむ樣に特別に製造してある藥品である、坐藥を挿入するには、指で靜かに押し込んで、それが急に指から離れて直腸内に滑り込んで仕舞はねばならぬ、かうして置けば直腸の上の方まで這入つて行くから効力なしに押し出されて仕舞ふ氣遣はない、坐藥の効力が現はれて來たと思つても、直ぐに便所に行かずに暫く待つた方が宜しい、さすれば効力は益々充分になる、
(四)浣腸、浣腸は屢々よく其目的を遂せしむるが、續けて餘り多く用ふるのはよくない、浣腸には彈性の腸管を用ひる、オレーフなり、ラノリンなり、或はバターなりを充分に塗布して肛門から十センチメートル計り挿入する、灌入する液はなまぬるがよい、腸を弱く刺戟するために、少許の石鹸を加へるのが便利である、量は姙婦では一リートルを超えないがよい、併し又半リートルより少いのもいけない、餘り少ければ効果がないからである、イリガートル(灌水器)は臀よりも三尺ばかり高い處に置くべし、若し液の灌入が止んだらば、腸管を少しばかり摺らせて、イリガートルを高くする、
便器は寒い時には温めねばならぬ、これは熱い湯を注ぎさへすれば造作もなく出來る、便器へかゝるのが心地あしくていけないといふ時には、脱脂綿で代用させてきれいに處置してもよい、
(五)下劑、下劑は最後の方法として用ふるが、峻下劑といふて、働きの極强いものは、堅く御斷りをせねばならぬ、カスカラ、サクラダの如きも、多少胃を侵して、姙婦では容易に嘔吐を催すから使はぬ方がよい、稱用せらるゝのは、大黄、煅性マグネシヤ、タマリンド、リチネ油、舎利鹽水等である、便通がいかに困難でも、決してひどくいきんだり、腹を抑したりしてはならぬ、たゞ以上申した方法の効果に

一任しておくべきであります、

五、尿通のこと

妊娠中尿は時々檢査して貰つて、糖分或は蛋白の有無を確める必要がある、これは、若しもの時に、直ちに療治にかゝりうるためである、

尿意頻數というて度々小便に行きたい樣になる事があるが、これは多くは、漸次膨大して來る子宮が、たゞ機械的に膀胱を壓迫するによるのである、うるさいけれども、其都度排尿せねばならぬ、若し我慢をして居れば、痙攣性又は炎衝性の障害を生じて來る、尿意頻數の困難を少くするには、液質の多い食物を節し、茶、珈琲等の飲み方を少くしなければならない、

出產に近くなる頃には、尿淋瀝と申して、小便が少しづゝ絕えず流れ出す事が屢ある、この時は適當な帶をせねばならぬが、尿の分解によつて直ぐに惡臭を放つ樣になるから、セツセと交換してよく洗濯せねばならぬ。

頻次の尿排出は、第四ヶ月の時に殊に吾々の注意を要する、何となれば、この時には子宮が後の方に摺つて、尿道が折れ曲る事があるからで、その以前から排尿の困難がある樣な時は、尙更である、斯かる際には膀胱は一杯になり、益々滿るにつれて段々に膨れ、そのために非常に痛みもあるが、一方には頻繁に排尿があるから、妊婦自身は只だ尿意頻數だと思つて居る、この誤解は無理もないが大きに困る、膀胱は非常に膨れると妊娠中の子宮と同一の高さになる事さへある、この際はまづカテーテルで尿を去り、それから婦人科の醫士について子宮を正位置に直して貰はねばならない、

（未完）

活ける家（續き）

醫學士　渡邊房吉君

（六）玄關及び應接室

應接室に入るには玄關を通らねばならぬ、玄關には

開閉自在な扉がなければなりません。訪問の客があれば扉を開いて先づ此方へと請じ入れ、接待掛りは之を玄關に出迎へ、次て應接室に案内せねばなりません。これが人類普通の應接の致方であります。我が活ける家に於ても扉を備へた玄關と、之に通ずる應接室と、客を迎へる接待掛りとが嚴然として備へられて居ります。然らば

○○○○○○○○○○活ける家の玄關とは何か

と云ふに、鼻の下にあつて横に裂けてゐる所謂口裂であります。而して此玄關に建て付けてあつて、開閉自在であるべき我が

○○○○○活ける家の扉

は、他てはない、紅いの美色に彩色た奇麗な縁を持つてゐる口唇であります。尚ほ装飾用兼廂として男子には上扉の上に八字の鬚を植ゑ付け、下扉の下には八束にも達しぬべき髯が繁茂させてあります。扉には之を閉ざすべき特別な

扉の鍵

と云ふべきものは備へて無いが、上下の扉を巾着の紐のやうに、一締に締くゝる括約筋と云ふ強い筋が入れてあります。此筋を引き締めて緊かり口裂を閉ざして仕舞へば、よしんば玄武門を打ち破つた英雄でも、無理に之を開くのは六ケしいので、古語にも「馬を河へ連れて行くことは出來るが、無理に之に飲ますることは出來ぬものだ」と云ふて居ります。これが抑も活ける家には必要なことで、家の主人は己れの好まぬもの、或は家の害になる飲食物は、飽く迄も之を拒み得ると云ふ意味を表はして居るのてあります。

口唇は又その主人の希望、思想、感情などを現はすためにも用ひられるもので、怒る時には「へ」の字に締まり、笑ふ時には「ロ」の字に開き、嘯く時には「チヨボ」口となり、愛の情の溢るゝ時には接吻にもなる、が、惡計の思ひの餘る時には陰口或は告げ口ともなることがあります。

前に述べた扉の戸の、赤い縁の部分からは、絶へず

粘液を分泌して口唇の乾燥するのを防いで居ります。これが即ち客の來る前に玄關先きに水を撒くのと同意味であります。

○○○○活ける家の客人

は、飲食物と云ふお方で、何れも胃と云ふ庖厨へと、道を急ぐ旅人であります。此客が手から案内されて活ける家の玄關へ來れば、「旅人を懇ろにせよ」と云ふ主人の仰せを畏んでゐる門衛は、玄關の扉を「サッ」と開ける。「然らば御免」と云ひ捨てに客が一歩を踏み入れば、其處には豫てより周到なる用意に怠りない、歡迎者やら接待がゝりやらが、總計合せて三十二人、何れも揃ひの白衣を纒ふて、「ズラリ」と二列に並んでゐて、言葉を揃へてしとやかに「先づ應接室へ」と案内します。其有樣は恰も旅館へ着いた時に番頭がよろこんで迎へ入れ、或は靴を脱がせて與れ、或は手鞄を提げて與れ、かくて定まつた一室へ案內して與れるのと一樣であります。

私は三十二人の接待掛りが、何れも白き衣を纒ふて、「ズラリ」と二列に並んで居ると云ふたが、これは活ける家の構造がまだ完全な時の話して、少しく破損した際には其人員も缺けて足らず、其色も亦いたく汚れて居ります。黃金銀で修繕して其缺を補つて居るものもあるが、寧ろ野卑て、到底高尚淸楚なる純白色には及びません。此接待掛りを總稱して

齒

と云ひ、一つ〳〵の齒には又それ〳〵の名前があります。其中央に座を占めて居る上下八本の銳い齒を切齒或は門齒、其左右に居並んでゐる上下四本の犬の齒の樣なのを其名にちなんで犬齒、其側方に侍べつてゐる總計八本の齒を小臼齒、最後に奧に控へてゐる十二本を大臼齒と云ひ、殊に最も奧にあるのは親が死んだ頃に成つて漸う生へると云ふこと、或は此齒の生へる頃には最早智慧盛りであると云ふことより、「親不知」、「智慧齒」等の名があります。食物と云ふ客が玄關より入れば、切齒は先づ之を嚙み切り、

犬歯は之を裂き、臼歯は之を壓しつぶし、更に左右六個の唾腺から出る

唾液

を混じて、道中無事に胃の腑へ送る様にする。若し食物が是等の歯から咀嚼れることが少いか、或は全く其目を脱れて所謂「鵜呑み」にされる時は、庖厨へ行つてからの受けが惡く、延いては活ける家の破滅の源ともなります。故に吾々は絶へず歯を研ぎまして「如何なる食物でも御坐んなれ、見事嚙み碎いて呉れんず」と待ち構へて居らなければなりません。然しながら餘りに硬い物を無理に嚙みくだくのは、歯の爲めにも良くないことで、之を受け取る胃に取つては更に良くないことであります。

初生兒ては咀嚼やうな必要のある來客は無いので、一本の歯も生へて居らぬが、滿一年にもならうとして、ソロ〳〵乳以外のものを食べねばならぬ様になれば、又雨後の筍の様に頭を擡げ始めて總計二十本にまでなる、これを

乳歯

といつて、七八歳頃になれば終に漸々拔け落ちて、永久歯のために取つて代はられるに至るものであります。

歯は骨では無く象牙質で、丁度、毛髮や爪が皮膚から轉化して來た樣に、粘膜から變化して生じたものであります。歯の白い衣を琺瑯質、其内側の物質を象牙質と云ひます。歯の見へる部分は「歯の冠り」、見へぬ部分は「歯の根」、根と冠りとの境ひが「歯の頸」であります。故に俗語に「歯の根が合はず」など云ふのは、「歯の冠りが合はず」と云ふべきであります。細い神經や小さな血管は、歯の根から、歯の中の所謂歯髓と云ふ部分に行き渡つて居ります。

歯の掃除が不充分であれば味つた食物の小片は、歯の上或は歯の間にたまり、遂に腐敗して醗酵素や酸類をつくり、漸次歯の表面の琺瑯質を侵して歯をくさらす様になる、之を

齲歯

と云ひ、齲歯のところに歯の神經が露出になつて、空氣や冷熱に曝らさるれば、堪へ難い歯の痛みを起すものであります。故に齲歯が出來たならば早速歯醫者を訪ふて相當の治療を乞ふべきであります。元來歯の善い悪い、奇麗汚いは、大に其人の人格に關係するもので、庭の表門が破れ、汚れ、傾いて居つたならば誰か其主人の人と爲りを疑はないものがありませうか

一日三度の食後には必ず歯を磨くがよい、之れが習慣となれば磨かなければ不愉快で堪らなくなる。磨くには柔かい羊歯と、質の良い歯磨粉や石鹼を用ゐる、食物の一片が歯の間に挿まつた時には揚枝を使ふ、針や「ピン」を使つては琺瑯質を傷つくる恐れがあります。此の如く歯の掃除に注意すれば啻に美しい顔の、薔薇色の口唇の間から、雪を欺く白い歯が、さも誇りがに氣高い樣をして居る計りではなく、齲歯と云ふ煩ひもなく、食物も良く嚙み碎かれて從て胃病と云ふ心配も少ないのであります。

馬の年齢は歯でわかる

と云ふことで、獨逸の諺にも「貰つた馬は歯を改めろ」と云ふことがあります。若し我々の歯が今の若さで朽ち缺けたとしたならば、取るべき年齢の來ないうちに老耄れたと云ふものではありますまいか。接待掛りから迎へ入れられた食物は、庖厨に急ぐ前に尙ほ

一人の役人

から手嚴しい吟味を受けねばなりません。何用あつて庖厨へ急くか、活ける家を利するためか、抑も之を害するためか。利するためなら自由通過を赦るされるか、若しも怪しい奴との嫌疑がかゝれば、直樣之から追ひ歸される。石や砂が食物中に忍び込んで、「マンマ」と庖厨へ落ち伸び樣とすることがあつても、直ちに「曲物ッ」との聲がかゝつて外へ投り出されねばなりません、此役人の名を

味覺

と云つて、食物の美惡を檢閲する役目てあります。然しながら味覺が通行を赦した食物にも、中々怪しい奴が居る、即ち味覺の檢閲は絕對的に信用し得べきものでない。時として私利私慾をのみ計つて、一家の平和健康や、主人の安寧幸福には一向無頓着なことがあります。アルコールは活ける家の敵でありと知りながら之を通し、藥は活ける家の友てありと知りながら其場から追ひ歸す。硬いものは胃に惡いと知りながら迎へ入れ、柔かいものは之に善いと承知しながら其通行を拒むことがあります。故に

味覺は必ずしも信用し得べき良官吏

てはありません。さて

應接の室

は口腔と云ひ、屋根は「ア、チ」形になつてゐる、此部を硬口蓋と云ひます。硬口蓋の後ろは軟口蓋に續き、左右二本づゝの肉の小柱が樹て居て、此左右の柱の間に懸壅垂と云ふ一枚の「カーテン」が垂れてあります。これは口を開いて鏡て見れば明かに認めることが出來ます。懸壅垂と云ふ

「カーテン」の役目

には二種ある。一は咽喉と云ふ廊下との境ひをたて、一は食物が此大道より庖廚に急ぐ時に鼻の腔へ迷ひ込まぬ樣に蓋をする、アワテ、蓋をするのか間に合はない時は米粒などか鼻へ入つて「クサメ」の連發することがあります。「カーテン」の後ろが應接室につゞく

廊下即ち咽喉

と云ふ部分であります。「天下の路は羅馬に通ず」と云ふ諺がありますか、此廊下も亦七筋の路次につながつて居ります。差し當り應接室一の路が一すじ、左右の鼻への路が二すじ、左右の耳へも亦二筋、殘る一すじ宛が胃ゝ肺へとてあります。然るに食物と云ふ我々の客は先づ胃へ通ずる路へと行く、此路が所謂

食道

と云ふので、路程約九「インチ」程の、筋肉から取

り圍まれて居る所であります。此路の盡くるところがいよ〳〵客の目的地たる

胃即ち庖廚

であります

衛生生活の一日（續き）

東京醫科大學　A、B生君

第十六　朝食には如何なる物が適するか

朝食は他の二食に比して少し其の性質を異にして居る點がある。他の二食は其前の食事の後僅に五時間位で食を取るのだが、朝食は前夜の食事以來十時間以上を經て居るのであるから、食思大に進むべきであるのに、不思儀にも他の食事の時程に食慾が無い。朝飯は殊に美味いと云ふ人も無いでは無いがそれは少數であります、食思の進まぬ時即ち甘く思はぬ時は、胃の消化力は從つて弱いのでありますから、此時に餘り多量に食したり、消化の難い物をとるのは宜しく有りません、無味い朝食に過食ぎた爲に美味い晝飯迄も無味くするのは策の得たるものではありません。だから朝食に適當なる食物と云へば、淡泊た食物、消化し易き食物、食思を催進する食物、流動的の食物等を少量にとるべきである然るに習慣と云ふものは有りがたいもので西洋でも日本でも、何時からと云ふ事は無く皆此理屈に適つた物を食して居るのであります。西洋では朝飯は多くは牛乳に少量のパン位で濟まして居る、日本でも朝飯には概して皆少量で、且つ所謂アッサリした物を食て居る、即ち日本に獨得の香の物に茶漬と云ふ食物を始めとして一般に朝は味噌汁があり、又京阪地方では朝粥と云つて戸毎に朝は粥をすゝつて居る、餘程都合よく考へた食事と云はねばならぬ。斯の如く朝飯には淡泊なる消化し易きものを少量にとると云ふ事は、又其人の一日の生活の上に大なる關係が有るのであります、決して無意味な事では無いので

あります。何故かと云ふに、人の一日の生活の間で午前の時間は最も多く頭を勞し心を用ふる時であります。然るに此時が若し多くの食事を取た後で有つたならば、頭の活動が鈍く、ぼんやりして思慮には不適當な頭と成るのであります。だから造物主は態と吾人の朝食の食慾を減じて置いて、午前中に十分に頭腦を活かせさて、午飯には十分の食慾を與へて美味いものを澤山喰はせて置いて、午後は盛に肉體を働かしめるのであります。又經濟上の點から云つても朝の食思不進の時に安價の物で濟まして置けば午食に食慾の進む時に美味の物を澤山に喰ふ事が出來る樣に成て居るのであります。之れを考へると誠に造化の妙は計り盡されぬものと云はねばなりません。

第十七　朝食廢止の可否如何

朝食廢止と云ふ事が數年以前に一度盛に稱へられた事が有りました。今も唱ふる人が有るか如何かは知りませんが、序だから玆に一寸卑見を述べて置きましやう、朝食廢止論者の理屈は如何であつたかは明かには覺えて居りませんが、多分これは胃病の患者に對して重に勸めたのでありましやう。左も無くば普通健康な人が朝食を廢止するのは、つまり一回分營養を不足にすると云ふ事に外ならぬのでありますから、譯も無く營養を不足にすれば當然それだけの障害を起すのは分りきつた道理であります。併し一回分不足なだけは他の二回にて量を增さば差引一日の量は普通と同じく成るでは無いかと云ふ人もありましやうが、一體吾人の胃が食物を收容する量は大抵限り有るものでありますから、多く喰つて一回分を補ふと云ふ譯には行きますまい、却て此爲に種々の障害を起して胃病の基を成す事と成りましやう、障害を起す事がたとへ無いにしても、健全の胃を特つて居る人が何を好んでか其樣な苦勞をする必要は有りません。商賈上巳を得ず朝の十時や十一時迄も寐なければならぬ人ならば是非も有りませんが、普通に早く起きて居る人であらば、此忙しい世

の中に立つて飯も喰はずに働ける譯のものではありません。だから胃病に成り度く無い爲に朝食を廢止するのは愚なる事勿論てありますが、既に胃病の患者と成つて居る人にしても、ある已を得ざる時期の外は朝食廢止は必要てはありますまい。胃病に成つたからと云つて、如何なる胃病かをも考へずに、醫者にもかゝらずに、直に朝食廢止法を採らうとするのは危險てあります。

第十八　牛乳は何時飲むべきか

前にも申しました通り朝食には淡泊な物や液狀の物を採るべき、時てありますから。牛乳を飲むには最も適當な時てあります。朝食には牛乳を澤山に飲みさへすれば他の食物はあまり多量に用ゐずともよい事となる。西洋人は朝は牛乳と少量のパンとて濟ますと申しました、實際之れは最も適當な方法と思はれます。日本の人は朝食の時に飯の外に別に牛乳を飮んだり、又は米飯に牛乳をかけて飮んだりする人があります、それは如何ても差支は有りませんが、牛乳と混じて胃に行く爲には矢張パンが最適當な形と思はれます。夜間遲くまで執務した後に寐前に牛乳を飲む人もありますが之れは宜しくありません、牛乳には限らず此時には何物をも喰ふのは宜しく無いので、胃腸に休養を與へないから障害を來すのは勿論であります。

第十九　誰が牛乳を飲用すべきか

食物と云ふ滋養物と云ふものも澤山ある中で、牛乳程完全な都合のよい物は無いのであります。其他の物は卵にせよ肉類にせよ、夫ればかりを喰て居て生きて居られると云ふ物は有りませんが、牛乳は之ればかりて生きて居る事の出來る成分を備へて居るのてあります、幼兒は牛乳ばかりて育ちますし、大人ても病氣の時には牛乳ばかりで暮す事が隨分あるのてあります、加之又牛乳は形は液狀であるが爲に大抵の病氣には牛乳が飲まれぬと云ふ事は滅多に無いのであります。斯かる次第てありますから牛乳は誰にてもよい、種々の病氣の爲に身體の弱つた人によ

いのみならず、健康な人にも用ひて大に滋養になるのであります、然るに茲にある少數の人には牛乳を飮んではならぬ人がある。それは誰かと云ひますに大體此牛乳の滋養になるのは何の爲かと云ふに人の身體に必要なる種々の物をも含んで居りますが、殊に多く含んで居るのは脂肪分でありまして、普通三プロセントから五プロセント位ひあります、其故に牛乳を飮んで第一の功は身體の脂肪分を增して痩せた體を肥えさす事で有ります。だから肥た人が牛乳を飮んでは益々肥えるばかりであります、痩せた人から見ると肥えたい〱と思ふが、肥えた人に成て見れば隨分苦しいものである、苦しいばかりでなく餘り肥える事は危險である、肥えた人は多くは心臟が弱い、之れ脂肪の爲に常に心臟が壓迫されるからであります。斯かる人が牛乳を續けて飮んで居れば益々脂肪が增し、心臟を壓迫して遂には取り返しのつかぬ立派な心臟病と成て仕舞ふ事があります。此他又牛乳は通じをつけ易いものでありますから、下痢して居る場合には飮まぬ方がよい、續いて用ゐると益々下痢を强くする事になります。

第二十　牛乳を飮むには如何なる注意を要するか

牛乳を飮むには先づ不良なる牛乳、腐敗したる牛乳を用ゐぬ樣に注意せねばならぬ、牛乳程腐敗し易い物はない、牛乳を器に入れて密閉せずに置く時には空中にある腐敗黴菌が入り來りて直に腐敗させるものである、だから必ず器の中に密閉して置かなければなりません、乳屋から配達する牛乳でも他の器に入れて長く置いてはなりません。又瓶の中に其まゝあるものでも古くなつた乳は決して用ゐてはなりません、少しなめて見て酸き味を持てるものや、牛乳の臭い以外の惡臭を持つてるものや白色の沈澱物のあるものや、之れ等は皆腐敗したる牛乳の證據でありますから決して用ゐては成りません。扨て次に善良なる敗腐して居ない牛乳を得たとして、之れは其儘直に飮んでよいかと云ふに之れは危險千萬であり

ます。瓶に入つて居る牛乳だけを見れば實に美しく見えて居りますが、之を搾つた場所を考へねばなりません。あらゆる汚れたる物が集まつて居る所から搾り取つて來たのでありますから、其汚物の間には必ず種々の黴菌が無數に居るに相違ない、其黴菌が牛乳の中へ入つて來ないと云ふ理由は無いのであります。此黴菌の澤山入つて居る牛乳を其儘で飮むと云ふ元氣がありますか。消毒の必要は明なる必須の事であります。扨て之等の黴菌の中で最も恐れられて居るのは何かと云ひますと結核菌であります、牛の肺結核に就いては其筋でも餘程注意はして居られましやうが、併し牛乳の中に結核菌を絶つと云ふ事は中々難かしい事であります。若しある一つの牛から搾つた牛乳はそれだけ別にして、甲の牛乳、乙の牛乳と皆別つてあるならば、都合よくば結核菌の居ない牛乳をも得ることが出來ましやうけれど、多くの牛乳から搾つた乳を皆混ぜるのであつて見れば、到底無菌の乳を得る事は不可能であると云はねばなりません。而して牛乳の結核菌から如何にして人に結核が傳染するかと云ふ樣な事については、未だ十分に定まつた說明が有りません。或人の說では幼兒が牛乳を飮んで牛乳中の結核菌から傳染して腸結核を起し、小兒の間は其儘で居て青春の頃に成つてから之れが勢を逞くして、他の器官をも侵し肺結核をも起す、多くの肺結核は斯くして來るものであると云ふて居るが、之れにも種々の反對說もありまして、要するに一定はして居ませんが動物試驗をし結核菌のある牛乳を牛に與へて、其牛か結核を起した事は確かなる實驗でありますから、人間が用ゐるにしても能ふべくんば消毒して此危險から遠ざかるのが當然でありましやう、扨て其消毒は如何にするかと云ふに、單に煮沸すれば足るのであります。結核菌を始め他の黴菌も皆煮沸して殺すことが出來ます煮沸するには丁寧に煮た方がよかろうと云ふので長く沸かして置く人がありますが、之れは只無益なるのみならす有害であります。之れにて牛乳の性

を惡くする事となります。故に其時間は十分乃至十五分を適度とするのであります。牛乳を沸かして器にうつして見ると、其表面に白紙の如き膜が出來ます、之れを取て棄てゝ殘りを飲む人が有りますが笑ふべき事であります。之れを棄てる位なら殘餘は飲む必要はありません、此上に張つた膜こそ牛乳の主要成分なる脂肪分であります。又牛乳を飲むに種々の物を入れて飲む人が有りますコーヒーや紅茶を入れたり、鷄卵を落して飲む人もありますが之れは少しも差支は有りません。只注意すべきは酸味であります、酸味が少しても入つたらば牛乳は凝まつてしまひます、學生が牛乳の中に蜜柑の汁を入れ乳が凝まつたのを見て驚いたと云ふ話は漱石先生の「野分」のミルクホールの場を御讀みになつた方は御存じの筈でありましやう。

第二十一　食後は如何にして口を潔むべきか

如何に目鼻立の美しい婦人ても、一度破顔一笑して其皓齒悉く現はれたる時に、齒が茶色に染んで居たり、齒の間に菜つ葉や、胡麻や、豆の皮が見えたとしたら、何と與のさめた話てはありませんか。斯く齒の掃除の屆いて居ない事は見て見苦しいばかりてなく、此樣な物か齒の間に殘つて居れば、直に腐敗して其の爲に直接に齒を弱くする事となります、加之又た此腐敗した物質は極めて惡臭を放つものてありまして、自分には左程にも感ぜられませんが、其吐く臭い呼吸は傍に居る人には鼻持のならぬものてあります。一般に人の呼吸の臭いのは其ある者は胃の病によりて來ますか、其他は悉く口中の掃除の不行屆から來るのであります。斯る事の無い爲に人は皆毎朝口の掃除はして居りますが、併し口中重に齒の間に汚物のたまるのは、主として食事の時に食物の零碎が齒の間に附着するより來るのてありますから、三度食事をして一回だけしかも食前に掃除したのては、口中に腐敗が盛に起るのも無理もない事と成ります。だから之れを防ぎ齒を美しくして置

くが爲には、是非共各食後に齒の掃除をしなければ成りません、扨て掃除をするには如何するかと申しますと、別に變つた方法もありませんから矢張前に申し上げた通り、朝と同じく毛楊枝を用ゐるのであります、別に齒磨粉を要しません只毛楊枝を持て齒の間をよく洗へば足るのであります。若し此方法を行ふ事の出來ぬ時には微温湯を以て含嗽するのも宜しい、餘り冷い水や熱い湯は宜しくありませんから微温湯を用ゐて其中に少量の食鹽を投じたら殊に宜しい、或は鹽剝水とか、明礬水とかの如き含嗽劑を用ゐれば尙更結構であります。食後含嗽すると云ふ事は極めて簡單な事で、且つ非常に氣分のよく成る事でありますから、習慣をつければ忘れる事は決して無く、含嗽せずには不愉快で居られない樣に成るものであります。食後妻楊枝を用ゐる人が有ります之れも宜しいが決して之ればかりで安心して居てはいけません、妻楊枝ばかりでは決して完全に掃除の出來るものでは有りません、之れは到底含嗽の助けとなるに足るのみでありまして、極言すれば氣休めに過ぎぬものであります。妻楊枝を用ゐる人に往々ある弊害は食後長く無意味に妻楊枝を口に啣へて居る事であります。婦人には比較的少ない樣で有りますが、此習慣は斷然廢して貰い度いもので有ります妻楊枝を啣へたまゝで談話したり事務を執たり、道を歩いたりして居る程人間が間が拔けて見ゆる事は有りません。又之れは見て見苦しいのみならず甚だ危險であります。之れを啣へたまゝうつかりして居て、ふと何かのはづみで之れを呑み込んで、口腔や咽喉を負傷したり、不幸な時には外科的手術をうけねば成らなかつた例は澤山有ります、愚の至りでは有りませんか。

○○○第二十二　○○○○○○○○○○○○○如何なる衣服が衛生的なるか

衣服の目的は澤山ありましやう、裝飾と云ふ事も大なる條件であり、外界に對して保護すると云ふ事も大なる目的の一つでありましやうが、それらよりも先づ第一に數へねばならぬのは體温調節の目的で

あります。吾人人間が健全に身體を保つて行く爲には常に同一の體溫を續けて行かねばなりません、然るに外界の溫度は時候によりて變ずるのみならず、一日の間にも時によつて變るのでありますから、人が裸體で居つては到底一定の體溫を續けるわけには行きません、衣服の必要は茲に起つて來るのであります。然らば此目的の爲には衣服の如何なるものが最も適當であるかを述べて見ましやう。之れは只衛生の方面のみから申すのであります。修飾や經濟上の事は讀者がよく御存じであります。仍て衣服を作る原料には種々のものが有りますが、其主なる物は毛絲、絹絲、麻、木綿の四種の物から織たものであります、其又織り方にも種々の法がありましやうが、一體如何なる物が最も衛生的であるかを種々の關係上から述へて見ましやう。

第一は勿論保溫の目的であります。身體から溫の去るのは二つの方法によるのであります。其一は放散てありまして、體溫は外界の溫よりも高いから外界の溫が低ければ低い程烈しく放散するのであります。今一つは傳導によるのであります、身體に觸るるものは物體にせよ、空氣にせよ、身體より寒冷である時にはそれを傳ふて體溫は去るのであります。此二つの作用にて體溫の去る事は共に衣服によつてある程度迄防ぐ事が出來るのであります。其放散を防ぐのは如何かと云ふと體表面から放散せんとするのを衣服を着くれば其衣服の面が即ち體表面の代りとなる、然るに體表面よりは衣服表面の方が低溫でありますから、放散する事は少なくなるのであります、此理により衣服を何枚も重ねる程其表面は低溫となるから放散は少なくなる故に溫く感ずるのであります。袷を一枚着たよりも單衣を二枚重ねた方が溫かなのは此の爲であります。今ま一例を申しましやうなら裸體で居て一〇〇の溫を放散するものとすれば、毛織の下着を一枚着けると（十五度の氣溫の時に）七三となり、この上に麻衣を着けると六〇となり、其上に短胴服と上衣を重ねますと三三となる

のてあります。傳導を防ぐのも矢張同じ理屈てありますが、衣服の體溫を傳導する力を比較して見ますに、之れは原料によつては別段差異はありません、只其織方によるのであります。其織方により空氣を多く含んで居るもの、即ち割合に輕い物程傳導する力が少ない、即ち着て暖いのであります。だからフランネルは最も暖かて、木綿之れに次ぎ、絹や麻は割合暖かく無いのであります。

第二は衣服濕潤の關係てあります。衣服の織目の間に水分を含みますと、衣服が重くなり、通風が不充分になりて身體より出したる汚れたる瓦斯を外氣と交換する事が出來ぬのて甚だ不愉快なるのみならず、水分がたまる爲に氣孔が塞かつて體溫の傳導を盛にするから、着る人に寒冷を感ぜしめます。然るに此濕潤の關係は織物の種類によつて大に差異がありますのて、水分を吸收する度は毛織が最も少なく、次が木綿て、麻と絹とは最も多いのであります。又同しく濕潤した場合にても、毛織物は彈力がありますから皮膚に附着する事が少ないが、麻や絹はぬれると直にぴちや／＼皮膚にひつ附きますから、非常に不愉快てあり且つ體溫を傳ふる事も甚しいのてあります。又一度濕潤した水分の蒸發する事は急なれば急なる程、體溫を奪取する事も急てありますが、毛絲織のものにては此蒸發が最も緩慢てありますから寒冷を感ずる事も少ないのであります。

第三に皮膚を淸むる關係であります。皮膚を淸むる事は之れ亦衣服の大切なる用の一つてありまして皮膚からは常に種々の排泄物がありまして、汗腺よりは汗を出し、皮脂腺よりは脂肪を出し、表皮細胞は新陳代謝の理にて表層のものより順に剝離して行くのてありますが、夫れ等の物を其儘に棄て丶置けば皮膚に附着して垢となり、衞生上甚だ有害な物てあります。而して之れを多く蓄積せぬように拭ひ取るのが衣服の役目てありますが、此目的の爲には毛織は他の凡ての物に劣つて居るのてあります。



トラホーム撲滅上の家庭本位と主婦

福島私立慈惠眼病院長　市川榮枝君

本邦に歴史ありて以來否寧ろ人間ありて以來始めて見聞すべき大多數の眼病にしてしかも其病性は獰猛頑強今や日本六十餘州擧けて彼れが侵略を被らざる土地（就中貧民窟を侵略す）なきに至る故に彼れに命ずるに或る論者は亡國病なる名を以てせり斯る不祥不吉の眼病とは何ぞそは諸君の夙に知らるゝ惡むべく厭ふべき「トラホーム」之れなり。

扨て此「トラホーム」に對して世人の多くが撲滅の策として既に執り又は執りつゝある所の方法は如何茲に予をして云はしめば世人の多くは學校本位を以て撲滅を計るものゝ如く然り何となれば府縣を論ぜず又都鄙を問はず或は新聞紙上に或は雜誌上に現はるゝ所の「トラホーム」云々が學校に關係せざること甚だ稀れなり之れ學校本位を以てするの然らしむる所ならん（「トラホーム」の製造所否「トラホーム」の傳染所が學校內にあるものゝ如く見なされたる反響歟）予私かに想ふ成程健全無病のものが入學以後學校內に於て或る疾病に感染せし例は慥かに見聞する所なるがゆゑ「トラホーム」も亦學校內に於て必ず傳染することゝ疑ひなし乍去素人的の關係者（無學の當局者及無學の學校醫）が云々する程學校內に於て傳染するものには非ざるべし何となれば或る信ずべき某々學校醫等の報告に依れば新入學者に間々多數の「トラホーム」を見るや敢て珍らしからずとの事果して然らば其新入學者に間々「トラホーム」の多き所以を研究すべきこそ我々眼科專門醫の責任な

りと思料す。

此の研究に先つて研究すべきものは家庭内に於て觸接傳染性の「トラホーム」が如何なる徑路を經て蔓延するものなるやの問題なり右の問題を解決するに當ては「トラホーム」の多き地方住民の家族に就て精しく檢査することを要す此必要に際して恰も宜し同僚桑原利馬君が大分縣西眞玉村一圓に亘り戸數三百四十七戸人員千三百〇一人に就て檢査せる殊に興味ある成績を見るに本病は比較的大人より子供に多く又男性より女性に多し而て其れが家庭内に蔓延する關係は母子間に傳染を免かれたる者二十七「プロセント」父子間に傳染を免れたる者三十二「プロセント」祖母と孫との間に傳染を免れたる者三十八「プロセント」祖父と孫との間に傳染を免れたる者四十一「プロセント」夫婦間に傳染を免れたる者四十三「プロセント」なりと更に同君の意見を摘要せば「本病は父子の間に於けるよりは母子の間に於てよく傳搬するものなるを知る之れ一は母は子供に接すると父より頻繁なると又一は母即ち婦人は父即ち男子より本病にかゝる事多きのみならず又婦人には重病者多きが故なり」次に「本病が幼者に多し……其理由恐くは子供は其父母より本病の傳染を受くるの外又子供同志より感染する機會大人同志のそれより多きが爲ならん之を要するに母先つ本病を其兒に傳へ子供又之を同志間に傳へ依て得たる處を再び母に傳ふ即ち母と其兒とは互に因果の關係をなす者にして婦人に本病多き所以も亦茲にあり」次に「一般に祖父母と孫との關係は父母と子との關係より疎なり」次に「農家の風習として小兒に個々別々に手拭を與ふるは罕にして小兒は常に他人の手拭(殊に母の手拭)を使用するも夫婦にありては通常各自固有の手拭を有し唯罕に(自己のものを見失ひし時)他のものを使用するのみなり之と夫婦間に於ける傳搬比較的少なき所以にしてやがて又親子間殊に母子間に傳搬し易き所以なり云々。

斯る關係を熟讀玩味せば將又靜思默考せば近來流行

病學上の意味より本病を家族病なりと云ふも決して無理ならざる事にして而して其病毒は眼の分泌物即ち眼脂中に含有せられそれが患者の手、指、爪、手拭、「ハンカチーフ」、衣服、枕、夜具、蒲團、洗面器、浴場等の如き媒介物に由て吾人の眼に觸接傳染するものなり以上記載する所を能く咀嚼して且つ飲下したらんには家庭内に於ける本病の蔓延の經路が判明せるのみならず新入學者に間々本病が多き所以も亦判明すべし何となれば本病が家族病にして且つ傳染の媒介物より見るも其傳染の機會が家庭に多きを以てなり。

論じ去り論じ來れば予の所謂家庭本位の「トラホーム」撲滅法を講ずるこそ適當ならん、但し、該法を實施するに當て其責任が家長にあるか將又主婦にあるかを研究せざるを得ず否大に研究すべし抑も吾人の家庭を組織するや家長は主として外務に當り主婦は主として内務に當る故に家庭内に出來せし事件は大となく小となく總て主婦に關係する所甚だ多し從て一家内の一切の衛生事項が主婦に關係せざると極めて少なし況んや主婦に多き「トラホーム」に於てをや乞ふ試みに見よ本病撲滅上之を豫防せんと欲せば先つ觸接傳染毒の媒介物に注意せざるべからず而して其媒介物は前にも述し如く患者の手、指、爪、手拭「ハンカチーフ」、衣服、枕、夜具、蒲團、洗面器、浴場等なり此れ等は平素主婦の世話すべき事項に屬し居ることゆゑ此際敢て家長を待たす主婦たるものが十分の注意を拂ふべき自然の責任を有し又本病撲滅上之を治療せんと欲せば時々刻々一々家族に向てやれ罨法せよやれ目藥を付けよやれ眼科醫院へ行け等何から何まで平素内務に當る主婦の世話すべき事項に係り居ることゆゑ此際敢て家長を待たず主婦たるものが奮勵一番すべき自然の責任を有す。

斯る道理から考一考せば本病撲滅上主婦の責任が頗且つ大にして國家が主婦に信頼すべき點も亦重且つ大なりと云ふべし嗚呼主婦たるもの國家の爲に宜しく自重自愛せよ



質疑

●問　私儀常に肩の凝り甚だしく且つ歯痛致し大に難儀致し候が右は如何なる故に候哉、又毎年夏季に至れば面部に非常に發汗いたし候得共是又何故なるか以上二件治療法有之候はゞ何卒次回の誌上に於て御示教下され度此段願上候

東京神田　一會員

●答　肩の凝り及び齲歯なくして歯の痛むこと並に發汗は或る程度までは生理的なれども一手一足半身又は單に顔面のみに來る限局性の多汗等は或る神經性の疾病に來ることがありますけれども其の輕度なるものは俗に云ふ上昇性の人抔に往々見ることてあります故に別段心配する事はないと思はれます肩の凝りに對しては温浴マッサージ電氣療法は最も著効あるものなれば是等の療法を受けらるゝが宜しいのです其他已むなき場合に於ては水蛭、吸角を用ひて肩から血を取ることがあり升が之れは一時非常に爽快を覺え延いて歯痛抔も止り升なれども惜い哉此等の療法は其効多くは一時的に止まり殊に習慣のつき易きものであります又種種の塗布藥注射藥等もあるけれども是迄の經驗に據れば決して滿足の効果を見る者ではありませぬゆゑ矢張り温浴及びマッサージ電氣治療を受けらるゝ方が最も適當と思はれます歯の痛みも肩の方の快癒を覺ゆると共に自然恢復されます顔面の多汗は別に心配するに及びません只時々氷水を手拭に浸して拭ふ位のことで宜しいのです又日常便通を調節することに注意せられ場合に依りては緩下劑を用ひ其他内服藥等の詳細に至りましては一應接診の上ならでは確答は出來ませぬ。

●問　平素至極強壯なる滿二年の男子重に睡眠中に鼻血を出し其れがため不機嫌にて困ります大抵

十日目か又は一週間毎に多くてはありませんが出血致します格別心配すべき病氣にてはなき哉養生法及び治療法等御教示被下候はゞ幸甚の至りに奉存候

愛媛　會員　某

●答　衄血は由來心臟疾患、急性及び慢性の鼻加答兒肝臟病、出血性血液病、例之は血友病壞血病に紫斑病等又處女にあつては月經時に當りて代償性月經となりて來り又は心身の過勞に依りて常習性衄血を來す場合も少なからぬ事でありますが從つて治療をなすにも其の原因を探査したる上それ相當の方法を講じなければならぬのであります、居常健康の小兒には極めて少量の衄血を見るは往々其の原因單に局部的に止まり例へば感冒後に發したる鼻加答兒に起因する事が多いのでありますから若し單にそれとすれば格別心配せらるゝ程の事もなからうと思はれます併しその症狀頑固にして荏苒治せざるものにあつては遂に「化膿性」、「肥厚性」等に陷り往々にして其害は腦の機能に及ぼすものなれば何れにしても是非醫療を仰がなければ不可ません

攝生方の一般としては小兒の鼻粘膜は薄弱にして極輕度の刺戟にも感作を受け易きものなれば塵埃、冷氣等をも避け且つ常に便通の調節を良くし、便秘に際しては主治醫に計るか又は藥店に販賣せる「グリセリン坐藥（小兒用）」を用ひらるべし



雜報

○宮中の虎疫豫防

淸國上海、福岡縣及山口縣下關市の各地に於て虎列拉病發生に付去る四日田中宮内大臣は豫防方注意として左の通り一般へ達せらる

一、コレラ病發生の地方を發し到着したる飲食物は一切進御すべからず

二、コレラ病發生の地方を發し又は同地に立ち寄り（滊車汽船にて通過したるを除く）着京したるものは沐浴更衣の上にあらざれば參内すべからず但し御前に昵近する者及奥向へ勤仕の輩に在ては前記地方發程の日より起算し一週間參内を憚るべし

三、コレラ病發生地を發し到着したる物品及郵便物書籍新聞紙雜誌の類は消毒の上にあらざれば宮中に受入すべからず

四、東宮御在宮の御飲食物の取扱及御在所參入並物品受入の場合も前各項に依るべし

○癩病院の新設

今回政府にて香川、熊本、青森、大阪及東京の五個所に開くべき癩病患者收容所は經費の都合上先づ東京及大阪二個所に開設し約二千の患者を收容する豫定なるが之れが收容所は我邦にて嚆矢の事業に屬し經營殊に困難なる可きを以て當局者も施設經營上汎く海外の事例を調査しつゝありと

勿論本邦にて個人又は團體の事業として知られたるは靜岡縣下の神山病院及び熊本回春病院の二個所なるが其經營者は何れも外國宣教師にて多年献身的奮闘に依り今日あるに至りしものにて官僚事業たる新設收容所にて一朝模倣し難きも其他同患者の集合地として知られあるは上州草津温泉なれば此程小野田香川縣知事等登山視察する所ありしが當時草津にある患者は二百五十餘名に及び中には陸軍大尉、法學士等の紳士もあれど概して身分低き者なれば各自の行爲甚だ放埓にて男女間の關係も同患者特有の性情に依り一層紊亂せりと云ふ

因に同温泉の同病に効能あるは顯著のものらしく第一期患者なれば治癒の見込あるやにて多年開業せる專門醫もあり旁々患者の集合夥だしければ當局者は收容所開設のため參考旁々目下取締方法研究中なりしと

○私立衞生會の注意

大日本私立衞生會は水害後の衞生上注意書を印刷し東京府下其他各府縣の浸水被害地一般へ配布せり又同會は虎列剌病豫防心得と云へる一書を印刷し福岡縣其他同病流行地一般へ配布せりと

○市の衞生上に關する注意

東京市にては這般の水害後の市内衛生状態に付大に憂慮しつゝありしが去七日左の注意を浸水區域は勿論一般市民に促すべき旨各區長に通達せり

水害に關する市民の注意

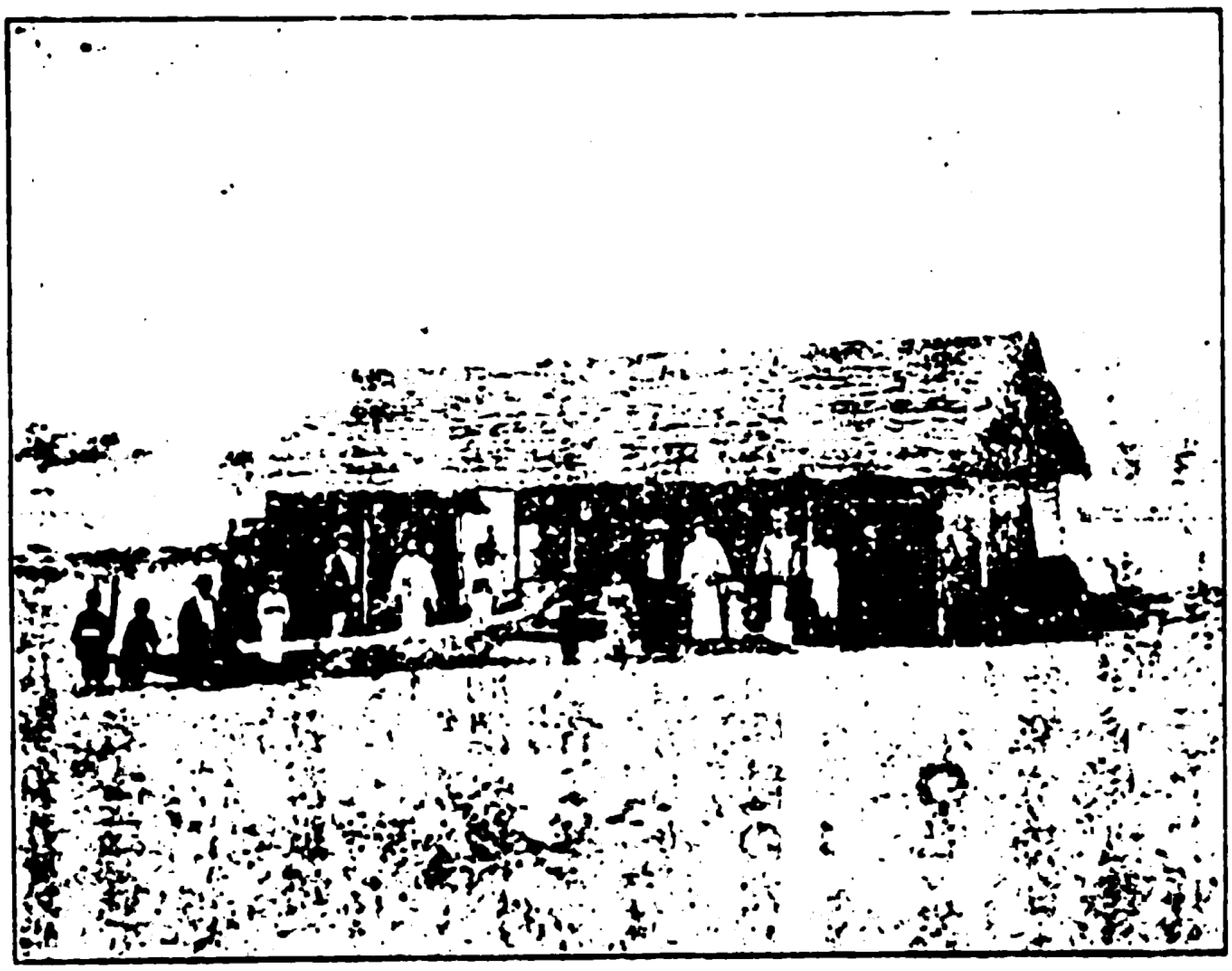
洪水の際は濕氣にて戸障子、什器被服類等總て水の觸るゝ箇所は非常に腐敗を生じ爲めに不知不識の間に黴菌を犯され又糞便汚物塵芥等有らゆる不潔物を混同せる汚水に浸潤さるゝ爲め傳染病の流行を來すことあり且つ濕潤せる住居は身體の弱點に乘じて種々なる疾病を發生するものなるが故に浸水の厄に遭ひたるものは飲食物の攝生身體の保温に注意するは勿論家屋内外に消毒方法及乾燥方法を行ひ鋭意之れが豫防に努めざるべからず今其節の要領を示せば左の如し

一、床下は勿論宅地内の汚水汚泥塵芥を除去すること

二、床下の濕潤せる所には成るべく砂又は石炭殻を撒布すること

三、堀井は臭味溷濁を認めざるに至る迄は何回にても井戸浚をなすこと

四、壁柱戸障子床板其他浸水したる部分は清水を以て能く洗滌すること



明治四十年七月新潟支會附設海水浴場の圖(一)

五、戸障子戸棚什器類は勿論床板も成るべく取外し反覆日光に曝し十分に乾燥せしむること

六、屋内は窓戸障子を開放して通に乾燥せしむること

七、飲料水は成るべく上水を用ひ止むを得ず堀井水を用ゐるときは當分の内煮沸若しくは濾過すること を要とす

八、室内に濕氣ある間は殊に身體に注意し殿冷等なき様注意すること

○衛生國際會議と

三島博士

第十四回の衛生及びデモグラフヒー國際會議は九月廿三日より同二十九日迄伯林に開會され本邦よりも政府委員參會したりしが第十五回の同會は既に米國華盛頓府に開催さるゝ事に略ぼ決定

し居る由にて同會議の常置委員なる三島醫學博士の許に此程左の招待豫告狀を送り來りたる由

謹呈　千九百七年二月二十六日を以て合衆國大統領の裁可を經たる本會議全會一致の決議に基き衛生及びデモグラフヒー國際會議常置委員兼第十四回會議合衆國政府委員たる余は貴下に對して千九百九年乃至十年コロムビア州ワシントンに開會せらるべき次回の會議に際し合衆國大統領の名を以て貴下を會議員として招待すべき旨を豫告すべしとの國務卿よりの命令を傳達するの榮を有す

余は後日合衆國政府より發送せらるべき公式の招待に對して貴下の寬容を切望するものなり而して貴下が此招待に應諾せらるゝことは合衆國政府の認めて以て大なる光榮とする所なり敬具

千九百七年七月二十二日

マサツチユセッツ州政府衛生局長
衛生學教授
チヤーレス　ハリントン

衛生及びデモグラフヒー國際會議常置委員學校衛生學國際會議常置委員
醫學博士　三島通良殿

同博士は去る明治三十六年學校衛生學國際會議の創立委員會より全會一致を以て常置委員に推選せられ尋で同年九月第十三回衛生及びデモグラフヒー國際會議がブラッセルに開會されし時前記のハリントン博士と共に衛生部の常置委員に推選せられしなりと



明治四十年七月新潟支會附設海水浴場の圖(二)

○仙臺市と肺病

仙臺市にては近來肺病の爲め死亡するもの頻繁なるを以て同市役所にて試みに明治三十五年より同三十九年に至る五ケ年間の死亡者を調査したるに逐年其數を增加するの傾向ありて現に以上五ケ年間の死亡者總數は八千

八百九十八中肺病にて死亡せるもの實に千二百五十三名にして即ち死亡者總數の約一割五分に當るを以て和達同市長は今回市内衞生組合に對して組合員集會の折を利用し適當便宜の方法を以て組合員に其豫防法を懇示すべきことを通牒せりと云ふ

○富士山上の細菌

富士山上も世の進化に伴ふて今季は旅館の設備成り電話の開通せしより登山者の利便此上なく從つて其數著しく增加するに至りたるが此處に注意を要すべきは高く遠く風塵の境域を脱したる山上に尚ほ多種の細菌を含蓄し居れる事なり海拔一萬二千尺の高峰已に植物も育せず鳥獸も棲まず萬古の雪さへ消えざる靈地に最微生活體たる細菌の生存ありと聞きては世人の意外に思ふものもあらんが安藤忠次郎氏が富士山の細菌に就いての研究の結果を左に掲げて登山者の參考に資すべし

▲細菌廿四種を發見す、安藤氏は昨年八月中登山したる際空氣飲料水其他に就き衞生的試驗を行ひ歸京後再び醫科大學衞生學教室に於て各種の材料に依り細菌學的檢査を行ひしに意外にも多數の菌を發見し且つ富士山の如き高きに在りても夏季は細菌の存在するの事實を證明し得たるより更に細菌の分離を行ふて二十四種の菌を得たるが此菌は空氣中より得たるもの十五種水中よりのもの九種にして尚細別すれば氣中菌は馬返の空氣より三菌、三合目の空氣より二菌、六合目の空氣より四菌、八合目の空氣より二菌、八合目の室内にて三菌と水中菌は三合目の飲料水より二菌六合目の飲料水より一菌、八合目の飲料水より一菌、銀明水より三菌、金明水より一菌、雪の溶解水より一菌となるが此他にも糸狀菌十數種及少數菌數種の存在を認めたりと

▲强毒性を認めず、然らば是等の菌はバクテリア結核菌等の如き强毒性のものなりや或は墓地等の陰濕の土地に發するも更に毒性を有せざる細菌の如きものか此點に於て氏は毒力の減弱せざるに乘じ第一回乃至第四回の移植菌を以て各二白鼠耳を二十四匹の

南京鼠の皮下に接種し試みたるも其結果は悉く罹病せず一週間を經るも些の變化を認めず化膿せしものなかりしより察すれば二十四種の菌は幸にも非強毒性菌なる事を認知し得るなりと言へば登山者は大に安心して可ならん

▲獨立の菌型、更に形態及び着色に就て檢鏡したる處に依れば是等の菌は皆普通亞仁林色素に容易く着色し難染性菌を存せざる由なり染色標本により形態を分てば球菌に屬するもの九種、桿菌十五菌にて倘九種の球菌は何れも活潑なる分子運動を見れども固有運動と認むべき無く又芽胞を證明するもの無きが桿菌中には固有運動を有するもの四菌、芽胞を證する者三菌、芽胞を形成するもの二菌ありしと而して地上に瀰蔓する無數の細菌中に於て人類及び獸畜に著しき疾病を來す處に病原菌は其數少く從つて其菌種の診斷も比較的容易なるも之に反して非病原菌の數は莫大なるものにして其鑑別さへ未だ完全ならざるにより富士山上に於て得たる二十四菌種は如何なる種類に屬す可きか判知せず暫らく獨立の菌型となす外無きなり兎に角以上の成績を綜合するに第一に富士山に於ては山麓より頂上に至るまで多數の菌を存し然も其の菌原は登山者に由來するの外冬季を通じて山上に生存せるものあるや否やは倘ほ不明に屬す第二山の高さに應じて異種の菌を多數に存し同一種菌に接する事少し第三水中菌及氣中菌の主なるものに於て互に共通するもの尠なく第四水中及空中より病原菌と認むべきものを發見せず第五氣中菌として多く發見する所の枯草菌及化膿性球菌を一も發見せざりしと云ふ

○腦膜炎の流行

此頃區域を劃して一種の腦膜炎流行し其の症狀及び流行の狀況等全然流行性腦脊髓膜炎に一致すれども脊髓液少しも溷濁せず全く澄明にして特異菌を發見せず大學などにても兎に角一種の流行性腦膜炎として取り扱ひつゝある由なるが此流行は東京市内のみに止らず埼玉、群馬、栃木等の諸地方にも少なか

らざりしと

▲百九圓十五錢（養育院收容一棟消毒費）▲七百七十圓五十錢（養育院鼠族的清潔方法施行費）▲百五十四圓九十錢（本所區横川町五十二戸に對する清潔方法施行費）▲千三百九十圓（七月中病院費）▲八百五十九圓（八月中同上）▲五百八十圓（九月中同上）

大日本婦人衞生會記事

新潟支會

○役員の異動

幹事澁川たま子評議員梅木しづ子同加藤から子の三氏は數年の間當支會の爲めに盡力せられつゝありしが今回長野其他へ移轉のため辭任せらる、又嚢に當會幹事たりし事ありし和田くに子の君には再び上州より來港せられしが今回更に幹事たることを快諾せられたり

○本會入會者

○事務所申込、

●新潟縣新發田甲仙埔採購合社々宅　特別會員　渡邊はる子

●山口縣吹我郡宇部新川町　通常會員　福島とよ子

●大阪市北區天滿橋筋一丁目　通常會員　水口ちゑ子

●千葉縣君津郡木更津北町一三四一　通常會員　山田千代子

○高田直子紹介、

●松山市三番町遊山內　通常會員　森きみよ子

○日下部政子紹介、

●飯倉町四ノ十三　通常會員　地口なかの子

○宇都宮支會入會者

○事務所申込、

●宇都宮市　通常會員　渡邊じゆん子

●同　通常會員　中宮みち子

○早川しか子紹介、

●同　通常會員　藪內すゑ子

○江原きん子紹介、

●同　通常會員　小杉はる子

○山形支會入會者

○國井幹事紹介、

●山形市　特別會員　塚田きぬ子

○會員改姓及資格變更

●大分縣、太田ため改め　大河原ため子

●山形支會特別會員改め　通常會員　姉川あき子

○轉居

●大坂府下東區寺山町四九〇二ノ一號へ　近藤こま子

●麻布區北日下窪町四四へ　小田切浦乃子

●四谷區永保町二へ　川田あい子

●磐城國石城郡平町方組小路二九へ　渡邊千賀子

●青森縣北津輕郡五所川原町へ　菊池とみ子

●安房國手群村平久里中一三五六和田方へ　川名しと子

●濟國營口正金銀行社宅へ　杉原出子

●小石川區關口町一六二へ　田中須磨子

●橫濱市神奈川相畑へ　丹羽しげ子

●長崎市出來大工町一六へ　飯田和香子

●大阪市東區北濱四ノ九〇へ　矢能以諾子

●金澤市二十八町一番町十三へ　諏訪きく子

●小石川區丸山町十二へ
●大分縣直入郡竹田町へ
●府下千駄ヶ谷村八九〇へ
●函館區龜田監獄二一號官舎へ
●新宿北裏町三八へ
●麹町區下六番町三六へ
●牛込區砂土原町三ノ一六へ
●四谷區南寺町一へ
●麻布區龍土町六七へ
●麻布區飯倉町三〇へ
●芝區山村町六へ
●麻布區本村町四三へ
●靜岡市本町大手先六〇へ
●本郷區四片町十いノ十六へ

古谷梅子
大河原ため子
大道隆子
野田秀子
庄司輝子
小山田かち子
鹽田てる子
土屋とり子
町田まつ子
菅豊子
吉坂よれ子
上野幾子
佐藤歌子
又木きく子

新刊寄贈書

國民教育 衛生讀本

堅牢なる家を建てんとするには、先づ其基礎から注意なければならぬ、健康なる國民をつくらんとするには、先づその少年から教育しなければならぬ。方今少年教育に就て書かれた文書は、實に汗牛充棟の有様で其盛大を極めて居るが、悲ひ哉少年の衛生教育に就ては未だ大に足らざるところて、我々の私かに遺憾として居る所てある

日本私立衛生會雑誌主幹關以雄氏は、こゝに見る所があつて國民教育衛生讀本なる一書を著はされた。氏は之を補習學校、青年夜學會、又は家庭等の讀本に供し、國民に必要なる衛生上の智識を得しめんことを希望せられたのてある。故に我國土の形勢から筆を起し、氣候風土の衛生に關する事項にうつり、食物、衣服、住居等の順序を以て記述され、公衆衛生に關する事項にて其結末を告げて居る。而して乾燥に傾き易い衛生上の事項に其興味を添へんがために、巧みに名家の文章、歌詞、古人の言行等を挿入して、一讀巻を掩ふに暇がないやうに注意してある

本書の程度は尋常小學校六學年の卒業者、即ち現今の高等小學校二ヶ年の課程を了へたるものを標準としたもので、成るべく國定教科書と聯絡を保たせやうとし、且つ内容上の智識を得しむると共に日常普通の用語を知り、普通文を讀みかつ解し、更に自ら普通文を綴る助けとしやうとして、特別に練習の一欄を設けて普通の熟字などを示し、文字活用の一斑を知得せしめやうとせしなど、實に編纂上の用意周到を極めて居る

私は本書の如き目的を以て生れた好著が、我が未來の國民に向て資益する所の大なるべきを信じ、之を家庭文庫の中に一冊とせられんことをお勸めいたす次第てある

私は今本書のうちで「學生の辨當」と云ふ一章を引照して、本誌の讀者諸姉にも實際的問題として必讀の價値ありと云ふ一斑を紹介しやうと思ふ

外出先の食に充てんが爲に携帶する食物を、邦俗辨當と稱す、行厨是なり。外勤の職に在るものは、多くは自ら辨當を携ふるの常にして、又學生は、下小學の兒童より上大學の學生に至る迄、その大部分は辨當を以て午餐一回の用に供するなりされば辨當は決して等閑に看過すべきものにあらず。殊に學生時代に於ては身體の發育期に屬すれば、食物の需用は一層多からざるを得ず。されば其分量及び品質等に注意するは、衛生上最も大切なることに屬す

然るに世人の之を視ること甚だ冷淡にして、一家の主婦として厨房を支配するもの亦却て之を厄介視するの觀あり。思はざるの甚しき者と謂ふべし

主婦は其愛兒の發育を希はざるか、又その良人の健康を祈らざるか。思慮なき主婦は炊きたての飯と副食物とを同じ辨當箱に詰込むを以て、副食物も其温氣を受けて、肉類は黴菌の繁殖を促し、漬物類はその香味を變ず。故に初夏の候などは食事の時間に至れば、既に腐敗に傾きて酸味を帶ぶるものあり。然れども兒童などは新陳代謝の作用甚だ盛なる時期なれば、未だ時の至らざる前より「正午の號鐘今やおそし」と待ち構へ、號鐘一點急ぎて箸を下すを以て、食品の良否を辨ずる暇もなく直に之を食し給ふなり豈危險の至ならずや

かくの如く一握の結飯も無上の珍味として之を迎ふるものは、新陳代謝の盛なるに加へて、晝間は身體の動作も亦最も盛なる時なればなり。されば其消耗補給の目的に副はしめんには、分量を多くするのみならず、成るたけ滋養に富める食品を擇ばざるべからず。然るに分量の多きは携帶に不便なりとて、特に少量なるを望むが如きは生理の原則に反し、衛生の道を心得ざるものといふべし。殊に女學生などにありては互に外面を衒はんとして、辨當の小なるを誇るが如き弊害なきにあらず、思はざるの甚しきものといふべし。且つ其弊の極まるところは間食の慣習を助長して、遂には消化器の衰弱を出來するに至るなり。婦人に消化器病の多きは運動不足にも因るとなれども、間食に原因すること最も多しといふて愼まざるべけんや

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可らず之を望んとするには必すや衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に隈じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を常水戸市に設く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徴收代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす。終身會員は一時に廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三十錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むるを●男子にして本支會の趣旨を賛成する者は之を賛成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。(死亡等は親戚知人より通知せらるべし)●本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會は八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●毎會學識經驗ある知名の士に囑託して衛生上の講話演說又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるべし)●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●茲に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立　水戸市上市田見小路二十五番地　茨城支會

私立大日本婦人衛生會
高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす●第六條當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條支會に 左の役員を置く會長一名副 會長一名幹事六名評議員十二名●第八條役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す 又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし 再撰するを得●第九條 本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條當支會は毎月一回講話會を開き 毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰 會務の報告等をなす●第十一條會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得但時宜により 男子の參列は謝絶することあるべし ●第十二條本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として 一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徴收は集合の席上に於てするを例とす但三ヶ月分以上宛前納すべし ●第十四條支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは 衆議に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條 特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地

高崎支會

私立大日本婦人衛生會
山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を撰任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし 本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出つべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは 其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は樸訥質素なるを要す上着及羽織は紺布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立
事務所山形市旅篭町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會
宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス 各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第叁條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス ●第四條入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所へ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ和合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條服裝ハ樸訥質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ紺布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立
事務所宇都宮馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會
米澤支會規則

第一條　當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を増進するにあり
第二條　支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に設く
第三條　當支會に會長一名副會長一名幹事五名を設く其任期は各一年とす
第四條　毎月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす
第五條　入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし
　但し已納の會費は返附せず
第六條　當支會の會費は左の三種として特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす
　但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す
第七條　會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金とす
第八條　會員及員外篤志者より金品の寄附あるときは役員協議の上特待員又は賛成員となすべし
第九條　講話の節は汎く婦人の傍聽を許す
第十條　支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事
第十一條　特に支會則に掲げざるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九
米澤支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

明治四十年九月十六日印刷（毎月一回二十日發行）
全年九月二十日發行
婦人衛生雑誌第二百十四號

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し
●通常會員章
第三號
メッキ製拾貮錢、送費六錢
●第二號
正銀製四拾錢、送費六錢
●終身及特別會員章
第一號
七拾錢（黒塗箱入送費九錢）
六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雑誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なりとも御納付相成候へば雑誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雑誌進呈

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座一〇六〇〇番）

東京市下谷區竹町五番地
編輯兼發行者　齋藤清之丞

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　飯田三千太郎

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場